

(様式第 10)

徳大院総第 106 号
令和 2

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人徳島大学
学長 野地 澄

徳島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒770-8501 徳島県徳島市新蔵町 2 丁目 24 番地
氏 名	国立大学法人徳島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

徳島大学病院

3 所在の場所

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町 2 丁目 50 番地の 1 電話(088)631-3111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1 呼吸器内科	2 消化器内科	③ 循環器内科	4 腎臓内科
5 神経内科	6 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11 リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
1 呼吸器外科	2 消化器外科	3 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	(6) 心臓血管外科	7 内分泌外科	(8) 小児外科
診療実績			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1) 精神科	(2) 小児科	(3) 整形外科	(4) 脳神経外科	(5) 皮膚科	(6) 泌尿器科	(7) 産婦人科
8 産科	9 婦人科	(10) 眼科	(11) 耳鼻咽喉科	(12) 放射線科	13 放射線診断科	
14 放射線治療科	(15) 麻酔科	(16) 救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無		
歯科と組み合わせた診療科名			
(1) 小児歯科	(2) 矯正歯科	(3) 口腔外科	
歯科の診療体制			

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 病理診断科	3 リハビリテーション科	4 脳神経内科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	8床	0床	0床	643床	692床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	268人	219人	432人	看護補助者	53人	診療エックス線技師	0人

歯科医師	79人	76人	128.9人	理学療法士	14人	臨床検査技師	臨床検査技師	53人
薬剤師	48人	0人	48人	作業療法士	4人		衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	8人		その他	0人
助産師	38人	1人	39人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看護師	672人	46人	712.2人	臨床工学士	17人	医療社会事業従事者	14人	
准看護師	0人	1人	1人	栄養士	0人	その他の技術員	61人	
歯科衛生士	9人	4人	12人	歯科技工士	8人	事務職員	138人	
管理栄養士	12人	11人	16人	診療放射線技師	38人	その他の職員	0人	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	90人	眼科専門医	12人
外科専門医	40人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	9人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	16人	脳神経外科専門医	17人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	22人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	16人
産婦人科専門医	19人	救急科専門医	10人
		合計	289人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (香美 祥二) 任命年月日 平成31年4月1日

リスクマネジメント委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	526人	20人	546人
1日当たり平均外来患者数	1,513人	444人	1,957人
1日当たり平均調剤数	入院 479.4剤, 外来 175.1剤		
必要医師数	142人		
必要歯科医師数	25人		
必要薬剤師数	19人		
必要(准)看護師数	338人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	225.5 m ²	鉄筋コン クリート	病床数	11床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 495m ² [移動式の場合] 台数 0台		病床数	28床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 63m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	72m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 自動開栓受付分注装置, 全自動生化学分析装置			
細菌検査室	259m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 細菌同定薬剤感受性測定装置, 抗酸菌培養装置, 細菌検査装置			
病理検査室	357m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 自動免疫染色装置, SL医用写真撮影装置			
病理解剖室	161m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 解剖台, スケール付ストレッチャー			
研究室	257m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) マルチスライスCT, 四肢用MRI, 回診用X線装置			
講義室	982m ²	鉄筋コン クリート	室数 28室	収容定員 630人		
図書室	75m ²	鉄筋コン クリート	室数 1室	蔵書数 4,000冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	84.0%	逆紹介率	60.2%
算出根拠	A: 紹介患者の数		17,859人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,059人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		402人
	D: 初診の患者の数		21,752人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市民病院 ・病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
白川 剛	白川剛法律事務所 ・弁護士		法律に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
上田 伊佐子	徳島文理大学 保健福祉学部 ・准教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べる者(学識経験を有する者)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 徳島大学・徳島大学病院のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当ありません	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。
(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法【令和2年5月27日付削除】	0人
FOLFIRINOX療法	3人
切除支援のためのマイクロコイル併用気管支鏡下肺マッピング法	5人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当ありません		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
10	56	球脊髄性筋萎縮症		ベーチェット病	43
79	57	筋萎縮性側索硬化症		特発性拡張型心筋症	41
2	58	脊髄性筋萎縮症		肥大型心筋症	20
1	59	原発性側索硬化症		拘束型心筋症	0
27	60	進行性核上性麻痺		再生不良性貧血	24
252	61	パーキンソン病		自己免疫性溶血性貧血	4
18	62	大脳皮質基底核変性症		発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
1	63	ハンチントン病		特発性血小板減少性紫斑病	24
0	64	神経有棘赤血球症		血栓性血小板減少性紫斑病	0
5	65	シャルコー・マリー・トゥース病		原発性免疫不全症候群	7
115	66	重症筋無力症		IgA腎症	27
0	67	先天性筋無力症候群		多発性嚢胞腎	33
75	68	多発性硬化症/視神経脊髄炎		黄色靱帯骨化症	43
58	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー		後縦靱帯骨化症	109
6	70	封入体筋炎		広範脊柱管狭窄症	15
2	71	クロー・深瀬症候群		特発性大腿骨頭壊死症	40
47	72	多系統萎縮症		下垂体性ADH分泌異常症	15
79	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)		下垂体性TSH分泌亢進症	1
3	74	ライソゾーム病		下垂体性PRL分泌亢進症	8
0	75	副腎白質ジストロフィー		クッシング病	8
3	76	ミトコンドリア病		下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
45	77	もやもや病		下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
7	78	プリオン病		下垂体前葉機能低下症	58
0	79	亜急性硬化性全脳炎		家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
1	80	進行性多巣性白質脳症		甲状腺ホルモン不応症	0
4	81	HTLV-1関連脊髄症		先天性副腎皮質酵素欠損症	1
0	82	特発性基底核石灰化症		先天性副腎低形成症	1
20	83	全身性アミロイドーシス		アジソン病	0
0	84	ウルリッヒ病		サルコイドーシス	81
0	85	遠位型ミオパチー		特発性間質性肺炎	74
0	86	ペスレムミオパチー		肺動脈性肺高血圧症	19
0	87	自己食空胞性ミオパチー		肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
0	88	シュワルツ・ヤンベル症候群		慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
23	89	神経線維腫症		リンパ管筋腫症	3
21	90	天疱瘡		網膜色素変性症	20
1	91	表皮水疱症		バッド・キアリ症候群	2
16	92	膿疱性乾癬(汎発型)		特発性門脈圧亢進症	2
3	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群		原発性胆汁性肝硬変	32
0	94	中毒性表皮壊死症		原発性硬化性胆管炎	3
14	95	高安動脈炎		自己免疫性肝炎	12
4	96	巨細胞性動脈炎		クローン病	89
5	97	結節性多発動脈炎		潰瘍性大腸炎	156
19	98	顕微鏡的多発血管炎		好酸球性消化管疾患	1
11	99	多発血管炎性肉芽腫症		慢性特発性偽性腸閉塞症	0
10	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
11	101	悪性関節リウマチ		腸管神経節細胞減少症	0
10	102	パージャール病		ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
1	103	原発性抗リン脂質抗体症候群		CFC症候群	0
213	104	全身性エリテマトーデス		コステロ症候群	0
102	105	皮膚筋炎/多発性筋炎		チャージ症候群	0
79	106	全身性強皮症		クリオピリン関連周期熱症候群	0
37	107	混合性結合組織病		全身型若年性特発性関節炎	4
48	108	シェーグレン症候群		TNF受容体関連周期性症候群	0
6	109	成人スチル病		非典型溶血性尿毒症症候群	1
2	110	再発性多発軟骨炎		ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
113	筋ジストロフィー	15	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	3	167	マルファン症候群	0
118	脊髄腫瘍	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	2	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	8	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキササンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	2	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイノミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
211 左心低形成症候群	0	259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212 三尖弁閉鎖症	0	260 シトステロール血症	0
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261 タンジール病	0
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262 原発性高カイトミクロン血症	1
215 ファロー四徴症	2	263 脳腫黄色腫症	0
216 両大血管右室起始症	0	264 無βリポタンパク血症	0
217 エプスタイン病	0	265 脂肪萎縮症	0
218 アルポート症候群	0	266 家族性地中海熱	2
219 ギャロウェイ・モワト症候群	0	267 高IgD症候群	0
220 急速進行性糸球体腎炎	7	268 中條・西村症候群	0
221 抗糸球体基底膜腎炎	0	269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222 一次性ネフローゼ症候群	48	270 慢性再発性多発性骨髄炎	0
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271 強直性脊椎炎	5
224 紫斑病性腎炎	3	272 進行性骨化性線維異形成症	0
225 先天性腎性尿崩症	0	273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	5	274 骨形成不全症	0
227 オスラー病	4	275 タナトフォリック骨異形成症	0
228 閉塞性細気管支炎	0	276 軟骨無形成症	0
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277 リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230 肺胞低換気症候群	0	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231 α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232 カーニー複合	0	280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233 ウォルフラム症候群	0	281 クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	0
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282 先天性赤血球形成異常性貧血	0
235 副甲状腺機能低下症	0	283 後天性赤芽球癆	0
236 偽性副甲状腺機能低下症	0	284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285 ファンconi貧血	0
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286 遺伝性鉄芽球性貧血	0
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287 エプスタイン症候群	0
240 フェニルケトン尿症	0	288 自己免疫性出血病XIII	0
241 高チロシン血症1型	0	289 クロンカイト・カナダ症候群	2
242 高チロシン血症2型	0	290 非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243 高チロシン血症3型	1	291 ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244 メーブルシロップ尿症	0	292 総排泄腔外反症	0
245 プロピオン酸血症	0	293 総排泄腔遺残	0
246 メチルマロン酸血症	1	294 先天性横隔膜ヘルニア	0
247 イソ吉草酸血症	0	295 乳幼児肝巨大血管腫	0
248 グルコーストランスポーター1欠損症	0	296 胆道閉鎖症	2
249 グルタル酸血症1型	0	297 アラジール症候群	0
250 グルタル酸血症2型	0	298 遺伝性膝炎	0
251 尿素サイクル異常症	0	299 嚢胞性線維症	0
252 リジン尿性蛋白不耐症	0	300 IgG4関連疾患	5
253 先天性葉酸吸収不全	0	301 黄斑ジストロフィー	0
254 ポルフィリン症	0	302 レーベル遺伝性視神経症	0
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303 アッシュヤー症候群	0
256 筋型糖原病	0	304 若年発症型両側性感音難聴	0
257 肝型糖原病	0	305 遅発性内リンパ水腫	0
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306 好酸球性副鼻腔炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
310	先天異常症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	326	大理石骨病	1
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	328	前眼部形成異常	0
316	カルニチン回路異常症	0	329	無虹彩症	0
317	三頭酵素欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
318	シトリン欠損症	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	1
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー ※令和元年7月1日以降の患者数	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群 ※令和元年7月1日以降の患者数	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算
・特定機能病院入院基本料	・認知症ケア加算
・救急医療管理加算	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・排尿自立支援加算
・診療録管理体制加算1	・地域歯科診療支援病院入院加算
・医師事務作業補助体制加算1	・特定集中治療室管理料2
・急性期看護補助体制加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・看護職員夜間配置加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・看護補助加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算2	・短期滞在手術等基本料1
・緩和ケア診療加算	・短期滞在手術等基本料2
・精神科身体合併症管理加算	・入院時食事療養/生活療養(I)
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・後発医薬品使用体制加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ 医療機器安全管理料1
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 医療機器安全管理料2
・ 糖尿病合併症管理料	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料
・ がん患者指導管理料イ	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ がん患者指導管理料ロ	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・ がん患者指導管理料ハ	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ がん患者指導管理料ニ	・ 遺伝学的検査
・ 外来緩和ケア管理料	・ 有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 有床義歯咀嚼機能検査2のイ
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 精密触覚機能検査
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ 睡眠時歯科筋電図検査
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 骨髄微小残存病変量測定
・ 腎代替療法指導管理料	・ BRCA1/2遺伝子検査
・ 外来放射線照射診療料	・ がんゲノムプロファイリング検査
・ ニコチン依存症管理料	・ 先天性代謝異常症検査
・ 療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・ がん治療連携計画策定料	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ 外来排尿自立指導料	・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 検体検査管理加算(I)
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 検体検査管理加算(IV)
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 国際標準検査管理加算
・ 薬剤管理指導料	・ 遺伝カウンセリング加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 心臓MRI撮影加算
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 胎児心エコー法	・ 外来化学療法加算1
・ 時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト	・ 無菌製剤処理料
・ ヘッドアップティルト試験	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 人工臓器検査、人工臓器療法	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 長期脳波ビデオ同時記録検査1	・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 脳波検査判断料1	・ がん患者リハビリテーション料
・ 中枢神経磁気刺激による誘発筋電図	・ 歯科口腔リハビリテーション料2
・ 単線維筋電図	・ 精神科作業療法
・ 神経学的検査	・ 認知療法・認知行動療法1
・ 補聴器適合検査	・ 精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・ 全視野精密網膜電図	・ 精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・ ロービジョン検査判断料	・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ 小児食物アレルギー負荷検査	・ 医療保護入院等診療料
・ 内服・点滴誘発試験	・ レーザー機器加算
・ CT透視下気管支鏡検査加算	・ 硬膜外自家血注入
・ 経気管支凍結生検法	・ エタノールの局所注入(甲状腺)
・ 画像診断管理加算1	・ エタノールの局所注入(副甲状腺)
・ 歯科画像診断管理加算1	・ 人工腎臓
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 手術用顕微鏡加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・ CAD/CAM冠	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ 手術時歯根面レーザー応用加算	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ 歯科技工加算1及び2	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ センチネルリンパ節加算	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・ 椎間板内酵素注入療法	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 腫瘍脊椎骨全摘術	・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・ 胸腔鏡下弁形成術
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 経カテーテル大動脈弁置換術
・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・ 胸腔鏡下弁置換術
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 経皮的中隔心筋焼灼術
・ 網膜再建術	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 人工中耳植込術	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・ 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	
・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 補助人工心臓	・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ 経皮的下肢動脈形成術	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ 腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 胎児輸血術
・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ 腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)
・ 腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 輸血管理料 I
・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・ 輸血適正使用加算
・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・ 同種クリオプレシピテート作製術
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ 生体部分肝移植術	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 腹腔鏡下腭腫瘍摘出術	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術	・ 歯根端切除手術の注3
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・ 麻酔管理料(I)
・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 麻酔管理料(II)
・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 歯科麻酔管理料
・ 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・ 放射線治療専任加算
・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 外来放射線治療加算
・ 同種死体腎移植術	・ 高エネルギー放射線治療
・ 生体腎移植術	・ 1回線量増加加算
・ 膀胱水圧拡張術	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 画像誘導放射線治療(IGRT)
・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・ 定位放射線治療
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 保険医療機関間の連携による病理診断	
・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
・ 病理診断管理加算2	
・ デジタル病理画像による病理診断	
・ 悪性腫瘍病理組織標本加算	
・ 口腔病理診断管理加算2	
・ クラウン・ブリッジ維持管理料	
・ 歯科矯正診断料	
・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	21
剖 検 の 状 況	剖検症例数 26 例 / 剖検率 14.1 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
四国における未診断疾患への包括的取り組み	瓦井 俊孝	神経内科	¥5,200,000	補 委 日本医療研究開発機構
バイオマーカーを利用したうつ病の層別化と治療計画策定法の立案	大森 哲郎	精神科神経科	¥18,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
腎糸球体ポドサイトにおける恒常性維持分子WT1のリン酸化阻害剤の探索	安部 秀斉	腎臓内科	¥1,749,999	補 委 日本医療研究開発機構
大量メチルコバラミン筋注によるALSの治療薬開発研究	梶 龍兒	神経内科	¥102,259,984	補 委 日本医療研究開発機構
ナローバンドUVBを発光するLEDを用いたアレルギー性鼻炎の光治療装置の開発	武田 憲昭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥33,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
生殖補助医療の出生児の長期予後と技術の安全性に関する研究	苛原 稔	産科婦人科	¥10,400,000	補 委 日本医療研究開発機構
地域と拠点を結び世界へ展開する新規医療技術の研究・開発 シーズA184「大規模医療情報を活用した抗がん剤誘発末梢神経障害に対する予防薬の開発」	座間味 義人	薬剤部	¥1,300,000	補 委 日本医療研究開発機構
レジストリの構築(第2層:正・負の感情価)	大森 哲郎	精神科神経科	¥1,950,000	補 委 日本医療研究開発機構
精神科診療ガイドラインの理解度の向上の検討	沼田 周助	精神科神経科	¥130,000	補 委 日本医療研究開発機構
研究データ品質管理に関する教育プログラムへの提言と検証	福田 大受	循環器内科	¥260,000	補 委 日本医療研究開発機構
腎機能不良・腎透析症例に対する抗HCV療法	島田 光生	消化器・移植外科	¥250,000	補 委 日本医療研究開発機構
C型肝炎の直接作用型抗ウイルス薬による治療後の病態変化に影響を及ぼす宿主因子等の同定を目指したゲノムワイド研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥910,000	補 委 日本医療研究開発機構
大腸がん超高危険度群におけるがんリスク低減手法の最適化に関する研究	高山 哲治	消化器内科	¥1,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
単関節型HALの探索的臨床試験、検証的医師主導試験の実施	高木 康志	脳神経外科	¥2,782,000	補 委 日本医療研究開発機構
女性ホルモン剤利用の包括的評価、若年時特性についてのライフコース分析	安井 敏之	産科婦人科	¥390,000	補 委 日本医療研究開発機構
慢性めまいの診断法確立とめまい指導の有用性に関する研究	武田 憲昭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥427,700	補 委 日本医療研究開発機構
超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究	山田 博胤	循環器内科	¥500,000	補 委 日本医療研究開発機構
革新的硬組織再生・再建システム創製	宮本 洋二	口腔外科	¥3,900,000	補 委 日本医療研究開発機構
クリニカルバス標準データモデルの開発および活用	若田 好史	病院情報センター	¥650,000	補 委 日本医療研究開発機構
生殖・周産期・小児期に関わるリンケージデータベースの構築	桑原 章	周産母子センター	¥1,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
発症時刻不明の急性期脳梗塞に対する適正な血栓溶解療法の推進を目指す研究	高木 康志	脳神経外科	¥130,000	補 委 日本医療研究開発機構
医療分野における研究倫理教育教材の総合的活用プログラムの開発	楊河 宏章	臨床試験管理センター	¥2,357,134	補 委 日本医療研究開発機構
治験調整医師・治験責任医師として治験を実施	和泉 唯信	神経内科	¥2,860,000	補 委 日本医療研究開発機構
腎functional MRIとAIによる慢性腎臓病の進行リスク評価システムの構築	原田 雅史	放射線科	¥1,040,000	補 委 日本医療研究開発機構
臨床検体・臨床情報の集積とデータ解析	岩佐 武	産科婦人科	¥390,000	補 委 日本医療研究開発機構

多様な施設共同非介入臨床研究における中央IRBの基盤整備とその効率的運用に関する研究	楊河 宏章	臨床試験管理センター	¥650,000	補委	日本医療研究開発機構
・早期診断基準の作成のためのエビデンス構築 ・遺伝性プリオン病の未発症の臨床調査と画像・生体材料の採取に基づく超早期診断基準に関わる有効性の検証	藤田 浩司	神経内科	¥260,000	補委	日本医療研究開発機構
革新的オンライン管理型心臓リハビリテーションシステムの医師主導治療	伊勢 孝之	循環器内科	¥1,300,000	補委	日本医療研究開発機構
プリオン病及び変異性ウイルス感染症に関する調査研究	原田 雅史	放射線科	¥200,000	補委	厚労省
びまん性肺疾患に関する調査研究	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥300,000	補委	厚労省
血液凝固異常症等に関する研究	香美 祥二	小児科	¥800,000	補委	厚労省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	原田 雅史	放射線科	¥500,000	補委	厚労省
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥330,000	補委	厚労省
美容医療における合併症の実態調査と診療指針の作成	橋本 一郎	形成外科	¥200,000	補委	厚労省
新薬創出を加速する症例データベースの構築・拡充/創薬ターゲット推定アルゴリズムの開発	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥23,500,000	補委	厚労省
配偶子凍結および胚凍結を利用する生殖医療技術の安全性と情報提供体制の拡充に関する研究	苛原 稔	産科婦人科	¥10,500,000	補委	厚労省
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	梶 龍兒	神経内科	¥500,000	補委	厚労省
てんかんの地域診療連携体制の推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究	森 健治	小児科	¥300,000	補委	厚労省
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	和泉 唯信	神経内科	¥200,000	補委	厚労省
「不妊に悩む方への特定治療支援事業」のあり方に関する医療政策的研究	桑原 章	周産母子センター	¥800,000	補委	厚労省
The role of ROGDI during enamel formation	MITSUIS. NAOMI	矯正歯科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
下顎骨再建後の咀嚼嚥下運動を包括評価する検査用グミゼリーの開発と評価法の検討	中島 世市郎	口腔外科	¥1,301,743	補委	日本学術振興会
ERK経路阻害剤による半月体形成性腎炎抑制効果の検討	永井 隆	地域小児科診療部	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
導管結紮による唾液腺再生マウスモデルを用いた再生に関わる遺伝子とmiRNAの同定	横田 美保	口腔外科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬とサーチュインの心筋保護作用とオートファジーの役割	笠井 飛鳥	麻酔科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
未固定遺体の皮膚穿通枝にMicrofil造影剤を注入し微細な血管網を明らかにする	安倍 吉郎	形成外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
TAK1-Pim-2経路がもたらす骨髄腫の難治性と骨破壊の役割とその克服法の開発	安倍 正博	血液内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
糖尿病における進行性腎障害の病態特異的バイオマーカー樹立と修復機構解明	安部 秀斉	腎臓内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
疫学研究に適用可能な、唾液の液体分析法による多検体自動処理の口臭検査法の開発	伊藤 博夫	むし歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
細胞極性に着目したインスリン分泌細胞効率的分化誘導のための新規培養法の研究	岩橋 衆一	消化器・移植外科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
骨形成作用を有する抗DKK-1抗体の効果メカニズムの解明	井上 美穂	かみあわせ補綴科	¥910,000	補委	日本学術振興会
顎顔面領域骨代謝性疾患におけるエピゲノム制御による新規骨リモデリング機構の解明	井澤 俊	矯正歯科	¥3,770,000	補委	日本学術振興会
細胞外基質による線維細胞のmiRNA発現制御に着目した肺線維症の新規治療法開発	佐藤 正大	呼吸器・膠原病内科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会

栄養・食品多様性の低下に起因する菌科的 要因を解明し、フレイルを防止する	永尾 寛	そしゃく科	¥1,430,000	補 委	日本学術 振興会
免疫チェックポイント阻害薬および血管新生 阻害薬併用療法における線維細胞の機能解 析	三橋 惇志	呼吸器・膠原病内科	¥2,860,000	補 委	日本学術 振興会
ラット胎仔肺細胞より作成したオルガノイドの 経気道投与による肺再生の可能性	松本 大資	呼吸器外科	¥1,950,000	補 委	日本学術 振興会
食物アレルギー早期寛解治療の開発に向け た皮膚バリア機能・炎症・搔痒との相関解 析	杉本 真弓	小児科	¥1,170,000	補 委	日本学術 振興会
高齢者の術後神経・認知機能低下に及ぼす 骨格筋量・マイオカインの影響	村上 千晶	麻酔科	¥2,470,000	補 委	日本学術 振興会
代謝イメージングによる頭頸部リンパ節転 移の高精度の診断法の確立	音見 暢一	放射線科	¥780,000	補 委	日本学術 振興会
滑走運動経路と咀嚼運動経路の差が CAD/CAM冠の長期予後に及ぼす影響の検 討	大川 敏永	総合歯科診療部	¥3,120,000	補 委	日本学術 振興会
口腔扁平上皮癌に対するNF-κBを分子標 的とした新規併用薬化学療法の開発	可児 耕一	口腔内科	¥650,000	補 委	日本学術 振興会
尿路上皮癌の多段階進展機構の先進的病 態解明と革新的治療開発	大豆本 圭	泌尿器科	¥2,600,000	補 委	日本学術 振興会
多嚢胞性卵巣症候群の血中性腺ホルモンと AMHを用いた診断精度の向上に関する研究	苛原 稔	産科婦人科	¥1,820,000	補 委	日本学術 振興会
吸入麻酔薬の心筋保護作用－サーチュイン とミトコンドリア機能調節の役割－	角田 奈美	麻酔科	¥2,210,000	補 委	日本学術 振興会
皮膚生着における血管内皮細胞及び線維 芽細胞内ERK5活性化の役割解明	津田 達也	形成外科	¥2,470,000	補 委	日本学術 振興会
Peutz-Jeghers syndromeにおける消化管ポ リープ予防薬の開発	田中 久美子	消化器内科	¥2,470,000	補 委	日本学術 振興会
精神疾患における認知機能とLグルタミン酸 濃度の関連に関する疾患横断的検討	渡部 真也	精神科神経科	¥1,560,000	補 委	日本学術 振興会
肉腫における酸性環境下でのFOXO1発現と 治療開発	土岐 俊一	整形外科	¥1,950,000	補 委	日本学術 振興会
多発性骨髄腫の機代謝の実態と酸代謝を標 的とした新規抗腫瘍療法の創出	藤井 志朗	血液内科	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会
Connectivity Map解析に基づいた新しい膵 癌予防薬の開発	藤野 泰輝	消化器内科	¥2,990,000	補 委	日本学術 振興会
Bariatric surgeryの腸内細菌叢変化による肝 発癌抑制効果の研究	柏原 秀也	消化器・移植外科	¥2,470,000	補 委	日本学術 振興会
胎生期の低栄養と出生後の栄養環境が生 殖機能に及ぼす長期的影響とその機序の解 明	岩佐 武	産科婦人科	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
アロマターゼ遺伝子欠損マウスにおける肥満 と慢性炎症病態の関連性の解明	岩浅 亮彦	矯正歯科	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
細胞外圧による間葉系幹細胞の分化運命制 御機構の解明	岩本 勉	小児歯科	¥3,900,000	補 委	日本学術 振興会
オッセオインテグレーションに関与する microRNAの同定	岩脇 有軌	そしゃく科	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
マウス肺移植による肺再生医療研究の可 能性	吉田 光輝	呼吸器外科	¥780,000	補 委	日本学術 振興会
アンドロゲンの糖代謝制御機構の解明と治 療への応用	吉田 守美子	内分泌・代謝内科	¥2,080,000	補 委	日本学術 振興会
歯髄細胞の幹細胞化を応用した新規治療 法の開発	宮城 麻友	かみあわせ補綴科	¥1,040,000	補 委	日本学術 振興会
骨置換性炭酸アパタイト多孔体と栄養血管を 利用した皮膚と骨の複合的再生療法の開発	宮本 洋二	口腔外科	¥4,550,000	補 委	日本学術 振興会
膵臓癌と微小環境内の脂肪細胞との相互作 用における転移・浸潤メカニズムの解明	武原 正典	消化器内科	¥2,470,000	補 委	日本学術 振興会
肝星細胞制御による肝移植後グラフト内肝 癌再発抑制機構の解明	居村 暁	消化器・移植外科	¥1,170,000	補 委	日本学術 振興会
3種類のサンプリングによるアレイ解析を用 いた口腔癌のセクシマブ耐性化機構の解 明	玉谷 哲也	口腔外科	¥1,040,000	補 委	日本学術 振興会

抗酸化物質を用いた酸化ストレス制御による口腔粘膜炎の発症予防・進行抑制効果の解明	玉木 直文	歯周病科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
PDXを用いた難治性尿路上皮癌の病態解明と開明的な薬剤耐性メカニズムの解明	福原 弥生	泌尿器科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
カプサイシン軟膏を用いた新しい嚥下障害の治療:機序の解明と嚥下性肺炎予防への応用	近藤 英司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥260,000	補委	日本学術振興会
エキソソームを介した筋萎縮発症機序の解明と新たな治療へのアプローチ	金山 博臣	泌尿器科	¥9,230,000	補委	日本学術振興会
変形性顎関節症の新規治療法の開発を目指したLubricinの発現調節機構の解明	栗尾 奈愛	口腔外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
自己硬化型β-TCP顆粒セメントによる垂直的骨造成への挑戦と骨再生医療への応用	福田 直志	口腔外科	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤と歯周病に関する臨床および基礎的研究	兼松 康久	脳神経外科	¥650,000	補委	日本学術振興会
骨髄腫細胞のメタボリックシフトに及ぼすHDAC1/3の役割と新規治療戦略の創出	原田 武志	血液内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
肺癌開質の新たな血管新生阻害薬耐性メカニズム-薬剤耐性克服に向けた線維細胞研究-	後東 久嗣	呼吸器・膠原病内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
股関節キネマティクスおよび関節面応力からみる股関節スタビライザーの役割	後東 知宏	整形外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病におけるL-DOPA誘発性ジスキネジアの機能病理に関する実験的研究	後藤 恵	神経内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
Deep learningを用いたFLAIR画像の合成・新手法と従来法との比較	阿部 考志	放射線科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病の発症・進展におけるADAM17の役割解明	香美 祥二	小児科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
癌幹細胞と口腔癌転移患者血液の2つに着目した転移特異的miRNA同定と診断法確立	高丸 菜都美	口腔外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌叢の活性で調節される食物由来の概リズム振動化合物の同定及びヒトへの応用	高橋 章	栄養部	¥5,200,000	補委	日本学術振興会
Connectivity Map解析に基づいた新しい大腸癌予防薬の開発	高山 哲治	消化器内科	¥4,030,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎症病態におけるヘパリンコファクターIIの臨床及び分子生物学的意義の解明	栗飯原 賢一	内分泌・代謝内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
遺伝子的手法を用いた歯周炎惹起血管異常の予防および治療法の開発と麻酔薬作用	高石 和美	歯科麻酔科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
深層学習とディープGMDH型人工知能技術による医用画像診断と感性工学への応用	高尾 正一郎	放射線科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
デジタル歯面像解析技術を用いた個人識別法の開発	高野 栄之	口腔管理センター	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
Neutrophil extracellular trapsの脳血管障害への影響	高麗 雅章	脳神経外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
MATE型輸送体のテストステロン輸送体としての生理機能解析とその阻害剤の探索	合田 光寛	薬剤部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
顎関節円板前方転位に対してスプリント装着が及ぼす治療効果の定量評価の試み	安倍 晋	総合歯科診療部	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化の進展と破綻における新規の慢性炎症惹起機構の解明と治療法の開発	佐田 政隆	循環器内科	¥9,230,000	補委	日本学術振興会
腹部聴診音のコンピューター解析による過敏性腸症候群の病態評価システムの構築	岡久 稔也	消化器内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
遺伝子多型と臨床検査を融合させた新規指標に基づく抗PD1抗体薬の効果予測法の開発	岡田 直人	薬剤部	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
医療ビッグデータと既存承認薬を活用した心臓蘇生後脳症治療薬の開発	座間味 義人	薬剤部	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
Serrated polyposis症候群の原因遺伝子と発癌機序の解明	岡本 耕一	消化器内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
香料含有成分を歯周炎治療に用いるための基礎的研究-ローズマリーに着目して-	細川 育子	むし歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会

金属アレルギー：感作と発症間に何があるのか？—特異的遺伝子の同定—	細木 真紀	かみあわせ補綴科	¥650,000	補委	日本学術振興会
健康格差の解消を目指した妊産婦歯科保健サービスの構築	坂本 治美	歯科衛生室	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
抗動脈硬化作用を有する極長鎖一価不飽和脂肪酸の基盤・応用研究	阪上 浩	栄養部	¥9,230,000	補委	日本学術振興会
一細胞遺伝子発現解析を用いた新規線維化促進細胞集団の同定と分子標的薬開発への応用	河野 弘	呼吸器・膠原病内科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
血清エクソソーム中のmiRNAパネルを用いた食道扁平上皮癌の早期診断モデルの構築	三好 人正	消化器内科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来多能性細胞と炭酸アパタイト多孔体による骨と軟骨の複合的再生医療の開発	鎌田 久美子	口腔外科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
新規抗骨髄腫薬を用いたTh1様 γ T細胞の誘導法とその抗骨髄腫活性の増強法の開発	三木 浩和	血液内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
新規ジストニア遺伝子KMT2Bのモデルマウスを使った発症関連分子探求と治療開発	瓦井 俊孝	神経内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
細胞老化とオートファジーに介入する慢性腎臓病の治療法開発	岸 誠司	腎臓内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
がん患者のエネルギー消費量の検討およびメタボローム解析による栄養素代謝変化の解明	山田 苑子	栄養部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
高次脳機能—咬合・咀嚼・栄養との因果関係解明と補綴健康管理モデルの構築	市川 哲雄	そしゃく科	¥3,640,000	補委	日本学術振興会
成長期における咀嚼性刺激の変化が咀嚼筋及び下顎骨の性状に及ぼす影響	七條 なつ子	矯正歯科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
Wntシグナルと(プロ)レニン受容体の制御による糸球体病態機序解明と治療戦略	漆原 真樹	小児科	¥910,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬の心保護作用に対するオートファジー・ミトコンドリアダイナミクスの影響	酒井 陽子	麻酔科診療部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
腫瘍が分泌するLOXはLuminal型乳癌の骨転移予見バイオマーカーになり得る	兼松 美幸	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛治療に向けたニューロングリアシグナルプロセッシング解明	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥4,290,000	補委	日本学術振興会
出生後早期に受けた各種ストレスが成長後の性機能に及ぼす長期的影響に関する研究	松崎 利也	産科婦人科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
加齢による口腔機能低下の予防を目的とした経皮的電気刺激応用の口腔機能管理の確立	松山 美和	歯科衛生室	¥910,000	補委	日本学術振興会
放射線性顎骨壊死モデルの確立とスタチンの血管新生・骨形成作用による予防・治療戦略	工藤 隆治	口腔外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
機能印象の有効性に関する検討	松田 岳	総合歯科診療部	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
訪問・在宅に向けた新しい概念の保存治療法の開発—高周波/電磁波などを応用して—	松尾 敬志	むし歯科	¥780,000	補委	日本学術振興会
Nr2を介した間葉系幹細胞から肝細胞への分化誘導法の開発	高須 千絵	消化器・移植外科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
超遠心法による分画抽出血清を用いた新規硬組織形成誘導法の開発	上田 公子 (山口 公子)	小児歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
癌関連脂肪細胞の分泌型exosome解析による新たな肝癌進展機序の解明と臨床応用	佐藤 康史	消化器内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
仮想現実と前庭感覚代行技術を用いた次世代ハイブリッド前庭リハビリテーションの開発	佐藤 豪	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
線条体コンパートメント構造に基づくレドーパ誘発性ジスキネジアの治療法開発	森垣 龍馬	脳神経外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
p21細胞周期チェックポイントを標的とした口蓋粘膜創傷治癒機構の解明	森 浩喜	小児歯科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
小児先天性胆道拡張症における胆道癌発癌機構解明に関する研究	森 大樹	小児外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
柑橘類果皮含有生理活性物質を歯周炎治療に用いるための基礎的研究	細川 義隆	むし歯科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会

乳腺幹細胞を用いた乳汁産生機能を有する乳腺の再生	森本 雅美	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
糖尿病関連歯周炎における骨細胞ギャップ結合を介した細胞間情報伝達機構の解明	坂本 英次郎	歯周病科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
スポンジ状の弾性を有する新規炭酸アパタイト骨補填材の開発	真野 隆充	口腔外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
サイクリン依存性キナーゼ5を標的とした糖尿病網膜症治療	三田村 佳典	眼科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
ハイドロキシアパタイトの優れた骨伝導能とバイオインテグレーションの本質を解明する	山村 佳子	口腔外科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
機械的受容体シグナルの再生医療研究および新規再生医療への応用	杉本 明日菜	小児歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
NASH肝癌切除後における再発促進の機序解明に関する研究	山田 眞一郎	消化器・移植外科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
低酸素環境下でLPSと最終糖化産物が糖尿病関連歯周炎の病態に及ぼす影響の検討	生田 貴久	歯周病科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
分子イメージングを用いた局所進行非小細胞肺癌に対する新規治療戦略	生島 仁史	放射線科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
肺がん・中皮腫に対する新規複合がん免疫療法の免疫学的基盤確立から臨床への展開	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥6,500,000	補委	日本学術振興会
フラボノイド・トキシン基の構造機能学解析-代謝ダイナミクスと癌免疫療法への新展開	酒井 徹	栄養部	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
CAFの糖代謝に着目した腫瘍免疫制御のメカニズムの解明	西 正暁	消化器・移植外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
カルプロテクチン誘導性炎症関連因子の産生に及ぼす高グルコースの影響	西川 泰史	口腔インプラントセンター	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
Vestibular suppressantが前庭代償に与える影響:動物モデル研究	松田 和徳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
D体アミノ酸に注目したうつ病の病態解明研究	沼田 周助	精神科神経科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
臓器間コミュニケーションを介した自己免疫疾患発症機序の解明	石丸 直澄	病理部	¥9,750,000	補委	日本学術振興会
自己免疫性胚中心反応の分子機序の解明と新たな自己免疫疾患治療戦略	石丸 直澄	病理部	¥3,120,000	補委	日本学術振興会
医療ビッグデータと新規モデル動物を応用した大動脈解離発症の病態解明と予防法開発	石澤 啓介	薬剤部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
クリニカル・クラクシップでの新たな診療現場指導・評価法導入による教育効果の研究	赤池 雅史	循環器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
免疫機構に着目したDown症患者の歯周疾患の基礎的解析および治療法の開発	赤澤 友基	小児歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
子どもの読字活動時における脳反応について	森 健治	小児科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
細胞骨格ターンオーバー調節物質による細胞内経路制御機構の解明と麻酔薬作用	川人 伸次	麻酔科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
未固定遺体を用いた動脈硬化症の病態および進展機序の解明	川端 豊	循環器内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
カルシウム感受容体がβ細胞および腸管上皮細胞機能の調節に果たす役割の解明	倉橋 清衛	内分泌・代謝内科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
廃用性筋萎縮の発生に関わるミトコンドリア・小胞体膜接触領域の機能解明	杉浦 宏祐	整形外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
糖尿病患者の歯周病重症化におけるIL-1作用と老齢性テストステロン低下の相乗効果	成石 浩司	歯周病科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者に対して舌のトレーニング効果の検証	石丸 直澄	病理部	¥650,000	補委	日本学術振興会
2成分制御系を中心としたバイオフィルム形成菌における抗菌薬抵抗性メカニズムの解明	村上 圭史	感染制御部	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂予防を目指したinflammasomeに関する基礎的研究	多田 恵曜	脳神経外科	¥650,000	補委	日本学術振興会

次世代型高解像度逆遺伝学を駆使した歯牙形成異常関連遺伝子の構造機能相関の解明	泰江 章博	矯正歯科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
PET-CTを用いたビスホスホネートの薬物動態解析と新規輸送システムの開発	西庄 俊彦	整形外科	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬ボストコンディショニング心筋保護作用におけるサーチュインの役割	大山 拓朗	麻酔科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
オミックス解析を駆使したうつ病の診断マーカー開発と病態研究	大森 哲郎	精神科神経科	¥5,850,000	補委	日本学術振興会
JAK/STATシグナル制御を標的としたシェーグレン症候群の新規治療戦略	青田 桂子	口腔内科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
覚醒時ならびに睡眠時プラキズムにおける咬筋酸素化動態の検討	大倉 一夫	かみあわせ補綴科	¥650,000	補委	日本学術振興会
肺癌同所性移植モデルを使用した癌微小環境の探求	川上 行奎	地域外科診療部	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
要介護高齢者の口腔インプラントへの補綴的介入による心理的・機能的変化の解明	川野 弘道	口腔インプラントセンター	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
生検組織診断による食道癌個別治療の実現	丹黒 章	食道・乳腺甲状腺外科	¥390,000	補委	日本学術振興会
肺高血圧における右室運動力学方程式と病理学所見の関連性の確立による診断・治療応用	早瀬 康信	地域小児科診療部	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
体内リンセトポイントの分子機序解明と老化関連病変の新たな治療標的への応用	竹谷 豊	栄養部	¥6,500,000	補委	日本学術振興会
卵巣高異型度漿液性癌の個別化治療戦略に向けた分子イメージング診断法の確立	竹内 麻由美	放射線科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
スタチンの血管新生作用と骨形成作用による薬剤関連顎骨壊死の予防・治療法の開発	中川 貴之	口腔外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
一方向連通気孔を持つ炭酸アパタイトによる顎骨再建と骨再生医療への応用	大江 剛	口腔外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
歯根膜組織の再生・恒常性維持マシナリーに関与する新機能の探索および応用法の開発	長谷川 智一	小児歯科	¥910,000	補委	日本学術振興会
気道・肺の障害・修復と再生におけるp53の役割～p53遺伝子改変ブタを用いた研究	鳥羽 博明	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
TAK1に着目した関節リウマチのさらなる病態解明と新規治療法開発への挑戦	天真 寛文	矯正歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
TLR9シグナルによる心臓リモデリングと不整脈発生メカニズムの解明	添木 武	循環器内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
咬合メカニカルストレスによる歯周組織形成・成熟機構に立脚したバイオ人工歯根の開発	大島 正充	かみあわせ補綴科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
methylation statusに着目したインスリン産生細胞分化度解明の研究	池本 哲也	消化器・移植外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
がん化学療法後の全身性免疫炎症病態へのFusobacteriumの役割の解明	中村 信元	血液内科	¥910,000	補委	日本学術振興会
医療ビッグデータと基礎・臨床研究を融合したパンコマイシン関連腎障害予防薬の開発	中馬 真幸	臨床試験管理センター	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬の心筋保護作用とマイクロドメイン・ミトコンドリアダイナミクスの役割	堤 保夫	麻酔科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
口腔病原細菌を指標とした在宅歯科医療実施環境への新感染制御管理の確立	渡辺 朱理	歯科衛生室	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
金属アレルギーにみられる皮膚・粘膜疾患形成メカニズムの解明	渡邊 恵	そしゃく科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
近赤外線照射と吸入麻酔薬の併用が高血糖状態の心筋虚血再灌流傷害に与える影響	田中 克哉	麻酔科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎における肝再生機能不全の解明と統合的治療法の開発	島田 光生	消化器・移植外科	¥5,590,000	補委	日本学術振興会
疾患関連分子群の発現制御を基盤とするシェーグレン症候群治療法の開発	東 雅之	口腔内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
3Dスキャナーを用いた顔面神経麻痺後の顔面拘縮の評価方法と治療法の開発	東 貴弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥390,000	補委	日本学術振興会

細菌感染による死細胞を認識する自然免疫受容体Mincleの歯髄における役割の解明	湯本 浩通	歯周病科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
骨髄由来免疫抑制細胞を標的とした放射線治療抵抗性の制御メカニズムの解明	東島 潤	消化器・移植外科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
ワイヤレス給電式医療機器の導入に向けた試み	藤原 茂樹	歯科麻酔科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
ジストニアの白質微細構造ネットワーク	藤田 浩司	神経内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
エビデンスを備えた口腔ケアの新展開-フコバクテリウムが及ぼす口腔癌病態への影響-	藤原 奈津美	歯科衛生室	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
高齢者の栄養を左右する咀嚼の主観的評価の要因を探索	藤本 けい子	そしゃく科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
術後排尿障害モデルにおける脂肪由来幹細胞制御による神経再生促進効果に関する研究	徳永 卓哉	消化器・移植外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
膠原病における潜在性肺高血圧症に対する早期治療介入の有用性	楠瀬 賢也	循環器内科	¥780,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病患者の歯周病原細菌感染度と推算糸球体濾過量(eGFR)との関係	二宮 雅美	歯周病科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
骨細胞-感覚神経ネットワークがもたらす骨疾患病態の解明	日浅 雅博	矯正歯科	¥4,940,000	補委	日本学術振興会
オーラルフレイル対策を包含したコモンリスクファクターアプローチによる介護予防戦略	日野出 大輔	歯科衛生室	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
口腔バイオフィルムの分散能と抗菌能を有する光触媒・ポリフェノール合剤の新規開発	尾崎 和美	むし歯科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
MRスペクトロスコピーによる心臓周囲脂肪の質的評価法の開発	八木 秀介	循環器内科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
筋組織内代謝変化を標的としたがん悪液質新規治療法の開発	布川 朋也	泌尿器科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
オンデマンドで撤去可能な歯科用スマートセメントのインプラントへの応用	武川 恵美	高次歯科診療部	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
滑膜の慢性炎症およびインスリン抵抗性に着目した変形関節症の発症・進行制御	浜田 大輔	整形外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
深部知覚刺激による前庭代償促進効果:動物モデルを用いた平衡訓練の実験的根拠の解明	武田 憲昭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
血管内皮細胞の核酸受容体を介した糖尿病性血管障害の発症機序の解明と予防方法の開発	福田 大受	循環器内科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
初期の歯髄炎における象牙芽細胞の石灰化と生体防御機構の解明	武川 大輔	むし歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
臨床ビッグデータを活用した新規抗てんかん作用の解明	武智 研志	臨床試験管理センター	¥780,000	補委	日本学術振興会
泌尿器癌の進展におけるガレクチン-3の分子機構の解明と治療応用	福森 知治	泌尿器科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
ストレッチ刺激に対するクロイド由来線維芽細胞の病的カルシウムシグナル応答の解明	峯田 一秀	形成外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
POCDにおける酸化ストレスマーカーの意義と新しい周術期予防戦略	箕田 直治	麻酔科診療部	¥2,990,000	補委	日本学術振興会
SGLT2阻害薬による心外膜下脂肪厚への影響と将来の心血管イベント発症との関連	平田 有紀奈	医療技術部	¥650,000	補委	日本学術振興会
口腔内湿度と睡眠中の呼吸および睡眠時ブラキシズムの関係	鈴木 善貴	かみあわせ補綴科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
新規胃癌抗癌剤耐性因子としてのEGR1の意義	北村 晋志	消化器内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
mTORを介した心筋保護作用 一虚血再灌流障害に対する新しい治療法の提案-	北畑 洋	歯科麻酔科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
GABA-A受容体作動薬が睡眠中の咀嚼筋群に及ぼす影響	堀川 恵理子	総合歯科診療部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
治療後に安全にはがせるダイレクトボンディング剤の開発	堀内 信也	矯正歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会

人工細胞を用いたオーラルケアシステムの基礎研究	木戸 淳一	歯周病科	¥4,030,000	補委	日本学術振興会
音信号特徴量を用いた針筋電図のリアルタイム判別システムの開発	野寺 裕之	神経内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
PDCC4のdouble-faceな役割解明とmicroRNAバイオマーカー確立	柴田 恵理子	腎臓内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
ソラフェニブ耐性肝細胞癌のメタボローム解析に基づくバイオマーカーの解明	友成 哲	消化器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
超高磁場対応型の高弾性生体内金属開発	誉田 栄一	歯科放射線科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
周術期使用薬がトロンボキサンによるヒト腎血流制御機構に及ぼす作用と患者予後の研究	里見 志帆	麻酔科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
黄色靭帯の肥厚と線維化の機序解明	林 二三男	整形外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
メサンギウム細胞でのオートファジーを介した慢性腎臓病の病態解明と評価治療法の樹立	長井 幸二郎	腎臓内科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
大腸癌幹細胞を標的とした新しい光線免疫療法の開発応用	六車 直樹	消化器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
栄養サポートチーム(NST)における効率的・効果的な栄養評価法の確立	濱田 康弘	栄養部	¥260,000	補委	日本学術振興会
Nf2を介した間葉系幹細胞からIPCへの効率的な分化誘導	齋藤 裕	消化器・移植外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
免疫によるがん進展、再発・転移加速化の分子メカニズムの解明とその治療への挑戦	日浅 雅博	矯正歯科	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
AI技術と加圧的造形粘膜炎デジタル印象法による自動床縁設定法の開発	市川 哲雄	そしゃく科	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
鶏卵を用いた次世代患者由来がんモデルの作製と薬剤スクリーニング法の確立	金山 博臣	泌尿器科	¥3,900,000	補委	日本学術振興会
運動による血清リン調節作用の解明とCKD-MBDの予防・治療への応用	竹谷 豊	栄養部	¥3,250,000	補委	日本学術振興会
重症筋無力症胸腺の病態解明と新たな治療への応用	松井 尚子	神経内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂におけるエフェロサイトーシスの役割解明	宮本 健志	脳神経外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
生体分解性足場を用いた組織工学的手法と赤色LEDによる新たな腸管再生法の開発	吉川 雅登	消化器・移植外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
大腸癌に対する青色LEDの抗腫瘍効果と光受容体の関与についての研究	武原 悠花子	消化器・移植外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
TNF- α 短期刺激による骨髄由来間葉系細胞の動態解析	成谷 美緒	かみあわせ補綴科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会

計247件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirata Y, Kusunose K, Yamada H, 他	超音波センター	Left atrial functional response after a marathon in healthy amateur volunteers	Int J Cardiovasc Imaging. 2019 Apr;35(4):633-643.	Original Article
2	Yagi S, Endo I, Murakami T, 他	循環器内科	Adult onset of Immunoglobulin A vasculitis - A case report	J Med Invest. 2019;66(3.4):344-346.	Case report
3	Yagi S, Zheng R, Nishiyama S, 他	循環器内科	Osteolytic primary bone lymphoma in the multiple bones	J Med Invest. 2019;66(3.4):347-350.	Case report
4	Yagi S, Yamazaki H, Nishio S, 他	循環器内科	Simultaneous Pulmonary Arterial and Venous Round Structures in Pulmonary Aspergillosis	Circ J. 2019 May 24;83(6):1416.	Case report
5	Yagi S, Kagawa K, Fujimoto E, 他	循環器内科	Recurrent venous thrombosis during direct oral anticoagulant therapy in a patient with protein S deficiency	J Med Invest. 2019;66(1.2):182-184.	Case report
6	Yagi S, Ueno R, Sutou K, 他	循環器内科	Lambda-like J wave due to acute myocardial infarction of the diagonal branch	J Med Invest. 2019;66(1.2):185-187.	Case report
7	Yagi S, Saijo Y, Matsuda T, 他	循環器内科	Mass on the head : Spontaneous arteriovenous fistula of the superficial temporal artery	J Med Invest. 2019;66(1.2):209-210.	Case report
8	Ueno R, Yagi S, Bando M, 他	循環器内科	Long-surviving Anomalous Origin of the Right Pulmonary Artery from the Ascending Aorta Complicated with Pulmonary Arteriovenous Fistula	Intern Med. 2019 Sep 15;58(18):2749-2750.	Case report
9	Fukuda D, Nishimoto S, Aini K, 他	循環器内科	Toll-Like Receptor 9 Plays a Pivotal Role in Angiotensin II-Induced Atherosclerosis	J Am Heart Assoc. 2019 Apr 2;8(7):e010860.	Original Article
10	Yagi S, Sata M	循環器内科	Rupture of pes anserine bursa in a patient with pes anserine pain syndrome due to osteoarthritis	J Med Invest. 2019;66(1.2):211-212.	Case report
11	Kusunose K, Haga A, Abe T, 他	循環器内科	Utilization of Artificial Intelligence in Echocardiography	Circ J. 2019 Jul 25;83(8):1623-1629.	Original Article
12	Kusunose K, Abe T, Haga A, 他	循環器内科	A Deep Learning Approach for Assessment of Regional Wall Motion Abnormality From Echocardiographic Images	JACC Cardiovasc Imaging. 2020 Feb;13(2 Pt 1):374-381.	Original Article
13	Saito Y, Yamada H, Kusunose K, 他	循環器内科	Noninvasive assessment of left-ventricular diastolic electromechanical coupling in hypertensive heart disease	J Echocardiogr. 2019 Dec;17(4):206-212.	Original Article
14	Torii Y, Kusunose K, Yamada H, 他	超音波センター	Updated Left Ventricular Diastolic Function Recommendations and Cardiovascular Events in Patients with Heart Failure Hospitalization	J Am Soc Echocardiogr. 2019 Oct;32(10):1286-1297.	Original Article
15	Kusunose K, Yamada H, Nishio S, 他	循環器内科	Pulmonary Artery Hypertension-Specific Therapy Improves Exercise Tolerance and Outcomes in Exercise-Induced Pulmonary Hypertension	JACC Cardiovasc Imaging. 2019 Dec;12(12):2576-2579.	Letter
16	Kusunose K, Torii Y, Yamada H, 他	循環器内科	Association of Echocardiography Before Major Elective Non-Cardiac Surgery With Improved Postoperative Outcomes- Possible Implications for Patient Care	Circ J. 2019 Nov 25;83(12):2512-2519.	Original Article
17	Saijo Y, Kusunose K, Okushi Y, 他	循環器内科	Relationship between regional left ventricular dysfunction and cancer-therapy-related cardiac dysfunction	Heart. 2020 Mar 24. (オンライン)	Original Article
18	Kusunose K, Yamada N, Yamada H, 他	循環器内科	Association Between Right Ventricular Contractile Function and Cardiac Events in Isolated Post-capillary and Combined Pre- and Post-capillary Pulmonary Hypertension	J Card Fail. 2020 Jan;26(1):43-51.	Original Article

計18件

19	Saijo A, Hanibuchi M, Ogino H, 他	呼吸器・膠原病内科	Paclitaxel for relapsed small-cell lung cancer patients with idiopathic interstitial pneumonias	Mol Clin Oncol. 2019 May;10(5):541-546.	Original Article
20	Hanibuchi M, Kanoh A, Kuramoto T, 他	呼吸器・膠原病内科	Development, validation, and comparison of gene analysis methods for detecting EGFR mutation from non-small cell lung cancer patients-derived circulating free DNA	Oncotarget. 2019 Jun 4;10(38):3654-3666.	Original Article
21	Toyoda Y, Koyama K, Kawano H, 他	呼吸器・膠原病内科	Clinical features of interstitial pneumonia associated with systemic lupus erythematosus	Respir Investig. 2019 Sep;57(5):435-443.	Original Article
22	Okazaki H, Sato S, Koyama K, 他	呼吸器・膠原病内科	The novel inhibitor PRI-724 for Wnt/ β -catenin/CBP signaling ameliorates bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice	Exp Lung Res. 2019 Sep;45(7):188-199.	Original Article
23	Abe S, Sato S, Aono Y, 他	呼吸器・膠原病内科	Functional analysis of human fibrocytes derived from monocytes reveals their profibrotic phenotype through paracrine effects	J Med Invest. 2020;67(1.2):102-112.	Original Article
24	Koyama K, Goto H, Morizumi S, 他	呼吸器・膠原病内科	Novel multiple tyrosine kinase inhibitor TAS-115 attenuates bleomycin-induced lung fibrosis in mice	Am J Respir Cell Mol Biol. 2019 Apr;60(4):478-487.	Original Article
25	Nokihara H, Nishio M, Yamamoto N, 他	呼吸器・膠原病内科	Phase 1 Study of Cabozantinib in Japanese Patients With Expansion Cohorts in Non-Small-Cell Lung Cancer	Clin Lung Cancer. 2019 May;20(3):e317-e328.	Original Article
26	Takezaki A, Tsukumo SI, Setoguchi Y, 他	呼吸器・膠原病内科	A homozygous SFTPA1 mutation drives necroptosis of type II alveolar epithelial cells in patients with idiopathic pulmonary fibrosis	J Exp Med. 2019 Dec 2;216(12):2724-2735.	Original Article
27	Miyamoto Y, Muguruma N, Fujimoto S, 他	消化器内科	Epidermal growth factor receptor-targeted molecular imaging of colorectal tumors: Detection and treatment evaluation of tumors in animal models	Cancer Sci. 2019 Jun;110(6):1921-1930.	Original Article
28	Mitsui Y, Miyoshi A, Okamoto K, 他	消化器内科	Different phenotypes of gastric fundic gland polyposis and cancer in patients with familial adenomatous polyposis depending on Helicobacter pylori infection	Gastric Cancer. 2019 Nov;22(6):1294-1300.	Case report
29	Nakagawa T, Sato Y, Tanahashi T, 他	消化器内科	JMJD2A sensitizes gastric cancer to chemotherapy by cooperating with CCDC8	Gastric Cancer. 2020 May;23(3):426-436.	Original Article
30	Muguruma N, Takayama T.	消化器内科	Endoscopic Sclerotherapy With Aluminum Potassium Sulfate and Tannic Acid: An Effective and Less Invasive Strategy for Internal Hemorrhoids	Clin Endosc. 2019 Nov;52(6):521-522.	Others
31	Nishimura K, Murakami T, Sakurai T, 他	腎臓内科	Circulating Apolipoprotein L1 is associated with insulin resistance-induced abnormal lipid metabolism	Sci Rep. 2019 Oct 16;9(1):14869.	Original Article
32	Obata F, Abe H, Murakami T, 他	腎臓内科	Direct oral anticoagulant successfully used to treat an adult nephrotic patient complicated with portal vein thrombosis	CEN Case Rep. 2019 May;8(2):134-138.	Case report
33	Ueda S, Nagai K, Yokota N, 他	腎臓内科	Influence of albumin leakage on glycated albumin in patients with type 2 diabetes undergoing hemodialysis	J Artif Organs. 2019 Sep;22(3):264-267.	Original Article
34	Sakurai A, Ono H, Ochi A, 他	腎臓内科	Involvement of E1f3 on Smad3 activation-dependent injuries in podocytes and excretion of urinary exosome in diabetic nephropathy	PLoS One. 2019 May 31;14(5):e0216788.	Original Article
35	Miyoshi M, Inoue Y, Nishioka M, 他	医療技術部	Clinical evaluation of prepepsin considering renal function	PLoS One. 2019 Sep 6;14(9):e0215791.	Original Article
36	Miki H, Nakamura S, Oura M, 他	血液内科	Correlation between high serum alkaline phosphatase levels and denosumab-related hypocalcemia in patients with multiple myeloma	Br J Haematol. 2019 Jul;186(2):355-358.	Letter
37	Udaka K, Nakamura S, Fujii S, 他	血液内科	Successful treatment of progressive multifocal leukoencephalopathy with mirtazapine and mefloquine in refractory myeloma	Int J Myeloma. 10(1): 8-12, 2020	Case report

計19件

38	Hirata Y, Kusunose K, Miki H, 他	超音波センター	Improvement of global longitudinal strain following high-dose chemotherapy and autologous peripheral blood stem cell transplantation in patients with amyloid light-chain cardiac amyloidosis: a case report	Fur Heart J Case Rep. 2019 Dec;3(4):1-6.	Case report
39	Sako W, Abe T, Furukawa T, 他	神経内科	Differences in the intra-cerebellar connections and graph theoretical measures between Parkinson's disease and multiple system atrophy	J Neurol Sci. 2019 May 15;400:129-134.	Original Article
40	Yamamoto Y, Yamamoto N, Kanematsu Y, 他	神経内科	The Claw Sign: An angiographic Predictor of Recanalization After Mechanical Thrombectomy for Cerebral Large Vessel Occlusion	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2019 Jun;28(6):1555-1560.	Original Article
41	Sako W, Abe T, Izumi Y, 他	神経内科	Deterministic-tractography-based approach for diagnosis and disease monitoring of amyotrophic lateral sclerosis	Clin Neurol Neurosurg. 2019 Jun;181:73-75.	Original Article
42	Murakami N, Sako W, Haji S, 他	神経内科	Potential Utility of 123I-MIBG Scintigraphy as a Predictor of Falls in Parkinson's Disease	Front Neurol. 2019 Apr 12;10:376.	Original Article
43	Sako W, Abe T, Haji S, 他	神経内科	"One line": A method for differential diagnosis of parkinsonian syndromes	Acta Neurol Scand. 2019 Sep;140(3):229-235.	Original Article
44	Yamamoto N, Yamamoto Y, Yamaguchi I, 他	神経内科	Cone beam-computed tomography angiography by intravenous contrast injection is reliable to evaluate patients with large vessel occlusion	J Clin Neurosci. 2019 Dec;70:67-71.	Original Article
45	Kawarai T, Yamazaki H, Miyamoto R, 他	神経内科	PMP22-related disease: A novel splice site acceptor variant and intrafamilial phenotype variability	Neuromuscul Disord. 2019 Jun;29(6):422-426.	Original Article
46	Fujita K, Matsubara T, Miyamoto R, 他	神経内科	Co-morbidity of progressive supranuclear palsy and amyotrophic lateral sclerosis: a clinical-pathological case report	BMC Neurol. 2019 Jul 18;19(1):168.	Original Article
47	Kawarai T, Orlacchio A, Kaji R	神経内科	Lesser motor disability in adulthood: A ten-year follow-up of a dyskinetic patient with ADCY5 mutation	J Neurol Sci. 2019 Oct 15;405:116383.	Original Article
48	Izumi Y, Oki R, Kuwabara S, 他	神経内科	The Japanese Early-stage Trial of high dose methylcobalamin for ALS	Brain Nerve. 2019 Nov;71(11):1261-1269.	Original Article
49	Kawarai T, Yamazaki H, Yamakami K, 他	神経内科	A novel AIFM1 missense mutation in a Japanese patient with ataxic sensory neuropathy and hearing impairment	J Neurol Sci. 2020 Feb 15;409:116584.	Original Article
50	Murakami N, Sako W, Haji S, 他	神経内科	Differences in cerebellar perfusion between Parkinson's disease and multiple system atrophy	J Neurol Sci. 2020 Feb 15;409:116627.	Original Article
51	Kawakita N, Toba H, Sakiyama S, 他	呼吸器外科	A case of thoracoscopic medial basal segmentectomy	Int J Surg Case Rep. 2019;55:15-17.	Case report
52	Tsuboi M, Kondo K, Masuda K, 他	呼吸器外科	Prognostic significance of GAD1 overexpression in patients with resected lung adenocarcinoma	Cancer Med. 2019 Aug;8(9):4189-4199.	Original Article
53	Tsuboi M, Kondo K, Soejima S, 他	呼吸器外科	Chromate exposure induces DNA hypermethylation of the mismatch repair gene MLH1 in lung cancer	Mol Carcinog. 2020 Jan;59(1):24-31.	Original Article
54	Inoue H, Hirano A, Ogura K, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Breast-conserving surgery without radiation in elderly women with early breast cancer	Surg Oncol. 2019 Dec;31:22-25.	Original Article
55	Aoyama M, Takizawa H, Tsuboi M, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Surgical training in video-assisted neck surgery-based thyroidectomy using fresh frozen human cadavers	J Med Invest. 2019;66(3.4):293-296.	Original Article
56	Ikemoto T, Feng R, Iwahashi S, 他	消化器・移植外科	In vitro and in vivo effects of insulin-producing cells generated by xeno-antigen free 3D culture with RCP piece	Sci Rep. 2019 Jul 24;9(1):10759.	Original Article
57	Ishikawa D, Nishi M, Takasu C, 他	消化器・移植外科	The Role of Neutrophil-to-lymphocyte Ratio on the Effect of CRT for Patients With Rectal Cancer	In Vivo. Mar-Apr 2020;34(2):863-868.	Original Article
58	Wada Y, Takata A, Ikemoto T, 他	消化器・移植外科	The protective effect of epigallocatechin 3-gallate on mouse pancreatic islets via the Nr2 pathway	Surg Today. 2019 Jun;49(6):536-545.	Original Article

計21件

59	Higashijima J, Shimada M, Yoshikawa K, 他	消化器・移植外科	Usefulness of blood flow evaluation by indocyanine green fluorescence system in laparoscopic anterior resection	J Med Invest. 2019;66(1.2):65-69.	Original Article
60	Ishikawa D, Takasu C, Kashiwara H, 他	消化器・移植外科	The Significance of MicroRNA-449a and Its Potential Target HDAC1 in Patients With Colorectal Cancer	Anticancer Res. 2019 Jun;39(6):2855-2860.	Original Article
61	Kashiwara H, Shimada M, Yoshikawa K, 他	消化器・移植外科	Duodenal-Jejunal Bypass Maintains Gut Permeability by Suppressing Gut Inflammation	Obes Surg. 2019 Sep;29(9):2745-2749.	Original Article
62	Iwahashi S, Nishi M, Yoshimoto T, 他	消化器・移植外科	A case of gastric heterotopic pancreas with gastroduodenal invagination	Surg Case Rep. 2019 Jul 10;5(1):110.	Case report
63	Yamashita S, Ikemoto T, Morine Y, 他	消化器・移植外科	Two cases of non-mucinous cystadenomas of the pancreas with pancreatobiliary phenotype and ovarian-like stroma	Surg Case Rep. 2019 Jul 23;5(1):117.	Case report
64	Saito Y, Sugimoto M, Imura S, 他	消化器・移植外科	Intraoperative 3D Hologram Support with Mixed Reality Techniques in Liver Surgery	Ann Surg. 2020 Jan;271(1):e4-e7.	Original Article
65	Mori H, Saito Y, Iwahashi S, 他	消化器・移植外科	Impact of Bevacizumab on Liver Damage After Massive Hepatectomy in Rats	In Vivo. Sep-Oct 2019;33(5):1469-1476.	Original Article
66	Morine Y, Ikemoto T, Iwahashi S, 他	消化器・移植外科	Clinical Impact of FOLFOXIRI Aiming for Conversion Surgery in Unresectable Multiple Colorectal Liver Metastasis	Anticancer Res. 2019 Sep;39(9):5089-5096.	Original Article
67	Wada Y, Ikemoto T, Morine Y, 他	消化器・移植外科	The Differences in the Characteristics of Insulin-producing Cells Using Human Adipose-tissue Derived Mesenchymal Stem Cells from Subcutaneous and Visceral Tissues	Sci Rep. 2019 Sep 13;9(1):13204.	Original Article
68	Nishi M, Yoshikawa K, Higashijima J, 他	消化器・移植外科	Utility of virtual three-dimensional image analysis for laparoscopic gastrectomy conducted by trainee surgeons	J Med invest. 2019;66(3.4):280-284.	Original Article
69	Kashiwara H, Shimada M, Yoshikawa K, 他	消化器・移植外科	The Effect of Laparoscopic Sleeve Gastrectomy on Obesity and Obesity-related Disease : the Results of 10 Initial Cases	J Med Invest. 2019;66(3.4):289-292.	Original Article
70	Ohta S, Morine Y, Imura S, 他	消化器・移植外科	Carbohydrate Antigen 19-9 Is a Prognostic Factor Which Correlates With HDAC1 and HIF-1 α for Intrahepatic Cholangiocarcinoma	Anticancer Res. 2019 Nov;39(11):6025-6033.	Original Article
71	Ohta S, Ikemoto T, Wada Y, 他	消化器・移植外科	A change in the zinc ion concentration reflects the maturation of insulin-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stem cells	Sci Rep. 2019 Dec 10;9(1):18731.	Original Article
72	Ishikawa D, Yoshikawa K, Takasu C, 他	消化器・移植外科	Expression Level of MicroRNA-449a Predicts the Prognosis of Patients With Gastric Cancer	Anticancer Res. 2020 Jan;40(1):239-244.	Original Article
73	Iwahashi S, Rui F, Morine Y, 他	消化器・移植外科	Hepatic Stellate Cells Contribute to the Tumor Malignancy of Hepatocellular Carcinoma Through the IL-6 Pathway	Anticancer Res. 2020 Feb;40(2):743-749.	Original Article
74	Yoshimoto T, Yoshikawa K, Higashijima J, 他	消化器・移植外科	Bevacizumab-associated intestinal perforation and perioperative complications in patients receiving bevacizumab	Ann Gastroenterol Surg. 2020 Feb 12;4(2):151-155.	Original Article
75	Ishikawa D, Yoshikawa K, Higashijima J, 他	消化器・移植外科	Anastomotic recurrence after laparoscopic distal gastrectomy with delta-shaped anastomosis : report of a case	J Med Invest. 2020;67(1.2):211-213.	Case report
76	Iwahashi S, Shimada M, Morine Y, 他	消化器・移植外科	Effect of Epigenetic Modulation on Cancer Sphere	J Med Invest. 2020;67(1.2):70-74.	Original Article
77	Yoshikawa K, Shimada M, Higashijima J, 他	消化器・移植外科	Establishment of an evaluation system for non-technical skills in surgery : Surgeon and paramedical staff assessments	J Med Invest. 2020;67(1.2):83-86.	Original Article
78	Egawa M, Mitamura Y, Niki M, 他	眼科	Correlations between choroidal structures and visual functions in eyes with retinitis pigmentosa	Retina. 2019 Dec;39(12):2399-2409.	Original Article
79	Matsumoto K, Kitahara T, Ito T, 他	耳鼻咽喉科	A new immunohistochemical method to evaluate the development of vestibular compensation after unilateral labyrinthectomy in rats	Acta Otolaryngol. 2019 Jun;139(6):505-510.	Original Article

計21件

80	Sato G, Matsuda K, Matsuoka M, 他	耳鼻咽喉科	Comparative study of anti-vertiginous and anti-anxious drugs for the treatment of chronic vestibular patients with secondary anxiety	Acta Otolaryngol. 2019 Jul;139(7):593-597.	Original Article
81	Ohnishi H, Jinnouchi O, Agawa S, 他	耳鼻咽喉科	Daily auricular stimulation with capsaicin ointment improved cough reflex sensitivity in elderly patients with dysphagia: a pilot study	Acta Otolaryngol. 2020 Mar;140(3):249-253.	Original Article
82	Azuma T, Nakamura K, Takahashi M, 他	耳鼻咽喉科	Electroneurography cannot predict when facial synkinesis develops in patients with facial palsy	J Med Invest. 2020;67(1.2):87-89.	Original Article
83	Tonogai I, Hayashi F, Tsuruo Y, 他	整形外科	Direction and location of the nutrient artery to the fifth metatarsal at risk in osteotomy for bunionette	Foot Ankle Surg. 2019 Apr;25(2):193-197.	Original Article
84	Tonogai I, Hayashi F, Tsuruo Y, 他	整形外科	Examination of the Origin and Branching Direction of the Anterior Medial Malleolar Artery From the Anterior Tibial Artery: A Cadaveric Study	Foot Ankle Spec. 2019 Apr;12(2):167-171.	Original Article
85	Wada K, Hamada D, Takasago T, 他	整形外科	The medial constrained insert restores native knee rotational kinematics after bicruciate-retaining total knee arthroplasty	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 May;27(5):1621-1627.	Original Article
86	Tonogai I, Hayashi F, Tsuruo Y, 他	整形外科	The Origin of the Anterior Lateral Malleolar Artery From the Anterior Tibial Artery: A Fresh Cadaveric Study	Foot Ankle Spec. 2020 Feb;13(1):69-73.	Original Article
87	Manabe H, Sakai T, Miyagi R, 他	整形外科	Identification of abnormalities in the lumbar nerve tract using diffusion-weighted magnetic resonance neurography	Eur Spine J. 2019 Apr;28(4):849-854.	Original Article
88	Yamashita K, Sakai T, Takata Y, 他	整形外科	Low Back Pain in Adolescent Athletes: Comparison of Diagnoses Made by General Orthopedic Surgeons and Spine Surgeons	Int J Spine Surg. 2019 Apr 30;13(2):178-185.	Original Article
89	Wada K, Hamada D, Takasago T, 他	整形外科	Rotational and varus-valgus laxity affects kinematics of the normal knee: A cadaveric study	J Orthop Surg (Hong Kong). Sep-Oct 2019;27(3):2309499019873726.	Original Article
90	Iwame T, Matsuura T, Okahisa T, 他	整形外科	Factors correlating with recovery of quadriceps strength after double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction with hamstring tendon autografts	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2020 Feb;30(2):307-312.	Original Article
91	Manabe H, Tezuka F, Yamashita K, 他	整形外科	Operating Costs of Full-endoscopic Lumbar Spine Surgery in Japan	Neurol Med Chir (Tokyo). 2020 Jan 15;60(1):26-29.	Original Article
92	Sairoyo K, Yamashita K, Manabe H, 他	整形外科	A novel surgical concept of transforaminal full-endoscopic lumbar undercutting laminectomy (TE-LUL) for central canal stenosis of the lumbar spine with local anesthesia: A case report and literature review	J Med Invest. 2019;66(3.4):224-229.	Review
93	Yamashita K, Sugiura K, Manabe H, 他	整形外科	Accurate diagnosis of low back pain in adult elite athletes	J Med Invest. 2019;66(3.4):252-257.	Original Article
94	Goto T, Sakai T, Sugiura K, 他	整形外科	A semi-rigid thoracolumbar orthosis fitted immediately after spinal surgery: stabilizing effects and patient satisfaction	J Med Invest. 2019;66(3.4):275-279.	Original Article
95	Ishihama Y, Tezuka F, Manabe H, 他	整形外科	Minimally invasive cervical micro-endoscopic foraminotomy for C6 radiculopathy with overlooked scapular winging - A case report	J Med Invest. 2019;66(3.4):340-343.	Case report
96	Wada K, Mikami H, Amari R, 他	整形外科	A novel three-dimensional classification system for intertrochanteric fractures based on computed tomography findings	J Med Invest. 2019;66(3.4):362-366.	Original Article
97	Wada K, Hamada D, Takasago T, 他	整形外科	Intraoperative analysis of the kinematics of the native knee including two-dimensional translation of the femur using a navigation system: a cadaveric study	J Med Invest. 2019;66(3.4):367-371.	Original Article
98	Tamaki Y, Hamada D, Mitsuhashi T, 他	整形外科	Intraligamentous Hematoma of the Anterior Cruciate Ligament	Case Rep Orthop. 2019 Oct 21;2019:9378632.	Case report
99	Iwame T, Matsuura T, Suzue N, 他	整形外科	Factors Associated With Knee Pain and Heel Pain in Youth Soccer Players Aged 8 to 12 Years	Orthop J Sports Med. 2019 Nov 20;7(11):2325967119883370.	Original Article

計20件

100	Maeda T, Takamatsu N, Hashimoto A, 他	整形外科	Return to play in professional baseball players following transforaminal endoscopic decompressive spine surgery under local anesthesia	J Spine Surg. 2020 Jan;6(Suppl 1):S300-S306.	Case report
101	Nakajima D, Yamashita K, Tezuka F, 他	整形外科	Successful full-endoscopic decompression surgery under local anesthesia for L5 radiculopathy caused by L5-Sforaminal stenosis and L4-5 lateral recess stenosis : A case report	J Med Invest. 2020;67(1.2):192-196.	Case report
102	Takeuchi M, Tezuka F, Chikawa T, 他	整形外科	Consecutive double-level lumbar spondylosis successfully treated with the double "smiley face" rod method	J Med Invest. 2020;67(1.2):202-206.	Original Article
103	Tamaki Y, Goto T, Takasago T, 他	整形外科	Proximal Femoral Rotational Osteotomy for Symptomatic Femoral Retroversion : A Case Report	J Med Invest. 2020;67(1.2):214-216.	Case report
104	Tezuka F, Sakai T, Nishisho T, 他	整形外科	Distribution of the Spinal Arteries in Adult Patients with Lumbar Spondylosis	J Med Invest. 2020;67(1.2):62-66.	Original Article
105	Manabe H, Sugiura K, Ishihama Y, 他	整形外科	Imaging Features of Non-Isthmic Spondylosis: A Case Report	Spine Surg Relat Res. 2019 Nov 1;4(2):187-189.	Case report
106	Sairyu K, Maeda T	整形外科	Fullendo-KLIF for the Anatomical Nomenclature of the Full-Endoscope Guided Lumbar Interbody Fusion through the Kambin Triangle: PELIF, PETLIF, FELIF, FE-TLIF or KLIF?	EC Orthopaedics. 2019 Aug 16;10(9):743-745.	Letter
107	Iwame T, Matsuura T, Iwase J, 他	整形外科	Two Years of Follow-up Magnetic Resonance Imaging for Osteochondral Injury of the Lateral Femoral Condyle in an Adolescent Basketball Player	J Med Invest. 2019;66(1.2):213-217.	Original Article
108	Matsudate Y, Yamasaki K, Ujije H, 他	皮膚科	Linear immunoglobulin A/immunoglobulin G bullous dermatosis with autoantibodies to LAD-1 and laminin- γ 1	Clin Exp Dermatol. 2019 Apr;44(3):e44-e46.	Case report
109	Murao K, Tamaki M, Kinoshita H, 他	皮膚科	Case of actinic lichen planus: The second Japanese case	J Dermatol. 2019 Aug;46(8):e304-e305.	Letter
110	Matsudate Y, Kubo Y	皮膚科	Case of angiokeratomas manifesting as cutaneous horns arising in chronic radiation dermatitis on the cheek	J Dermatol. 2019 Oct;46(10):e388-e390.	Letter
111	Murao K, Sogawa M, Kubo Y	皮膚科	A case of an insect bite-like reaction in a patient with angioimmunoblastic T-cell lymphoma	Eur J Dermatol. 2019 Aug 1;29(4):425-426.	Case report
112	Tsuda T, Imanishi M, Oogoshi M, 他	形成外科	Rho-associated protein kinase and cyclophilin A are involved in inorganic phosphate-induced calcification signaling in vascular smooth muscle cells	J Pharmacol Sci. 2020 Mar;142(3):109-115.	Original Article
113	Shikata E, Tamura T, Shinno K, 他	脳神経外科	Importance of Managing the Water-Electrolyte Balance by Delivering the Optimal Minimum Amount of Water and Sodium After Subarachnoid Hemorrhage	World Neurosurg. 2019 Sep;129:e352-e360.	Original Article
114	Yamaguchi T, Miyamoto T, Kitazato KT, 他	脳神経外科	Time-dependent and site-dependent morphological changes in rupture-prone arteries: ovariectomized rat intracranial aneurysm model	J Neurosurg. 2019 Sep 13;1-9. (オンライン)	Original Article
115	Mizobuchi Y, Nakajima K, Fujihara T, 他	脳神経外科	The risk of hemorrhage in stereotactic biopsy for brain tumors	J Med Invest. 2019;66(3.4):314-318.	Original Article
116	Kagusa H, Mizobuchi Y, Nakajima K, 他	脳神経外科	Metastatic tumor to the orbital cavity from a primary carcinoma of the uterine cervix : a case report	J Med Invest. 2019;66(3.4):355-357.	Case report
117	Yamaguchi I, Kanematsu Y, Shimada K, 他	脳神経外科	Active cancer and elevated d-dimer are risk for in-hospital ischemic stroke	Cerebrovasc Dis Extra. 2019;9(3):129-138.	Original Article
118	Yamaguchi I, Nakajima K, Shono K, 他	脳神経外科	Downregulation of PD-L1 via FKBP5 by celecoxib augments antitumor effects of PD-1 blockade in a malignant glioma model	Neurooncol Adv. 2019 Dec 26;2(1):vdz058.	Original Article

計19件

119	Uemura Y, Sakai Y, Tsutsumi YM, 他	麻醉科	Postoperative nausea and vomiting following lower limb surgery: a comparison between single-injection intraarticular anesthesia and continuous epidural anesthesia	J Med Invest. 2019;66(3.4):303-307.	Original Article
120	Kawahito S, Mita N, Soga T, 他	麻醉科	Accuracy and reliability of continuous blood glucose monitoring during pediatric cardiopulmonary bypass	J Artif Organs. 2019 Dec;22(4):353-356.	Original Article
121	Ishikawa Y, Hari Y, Murakami C, 他	麻醉科	Early Diagnosis of the Cardiopulmonary Collapse Type of Amniotic Fluid Embolism with Obstetrical Disseminated Intravascular Coagulation during Elective Cesarean Section: A Case Report	J Med Invest. 2020;67(1.2):207-210.	Case report
122	Kakuta N, Kawahito S, Mita N, 他	麻醉科	Continuous blood glucose monitoring during pediatric cardiopulmonary bypass	Clin Pediatr Anesth. 2019;25:3-7.	Original Article
123	Tominaga T, Tomotake M, Takeda T, 他	精神科神経科	Predictors of life skills in people with schizophrenia	J Med Invest. 2020;67(1.2):75-82.	Original Article
124	Shono M, Urushihara M, Suga K, 他	小児科	Enhanced angiotensinogen expression in neonates during kidney development	Clin Exp Nephrol. 2019 Apr;23(4):537-543.	Original Article
125	Hayabuchi Y, Homma Y, Kagami S	小児科	Optical coherence tomography for observing development of pulmonary arterial vasa vasorum after bidirectional cavopulmonary connection in children	PLoS One. 2019 Apr 8;14(4):e0215146.	Original Article
126	Fujioka K, Nagai T, Kinoshita Y, 他	小児科	Successful Treatment With Voriconazole Combined With Amphotericin B-liposome for Fluconazole-Resistant Pulmonary Cryptococcosis After Renal Transplantation	CEN Case Rep. 2019 Nov;8(4):261-265.	Case report
127	Hayabuchi Y, Homma Y, Kagami S	小児科	Right Ventricular Myocardial Stiffness and Relaxation Components by Kinematic Model-Based Transtricuspid Flow Analysis in Children and Adolescents with Pulmonary Arterial Hypertension	Ultrasound Med Biol. 2019 Aug;45(8):1999-2009.	Original Article
128	Mori T, Goji A, Toda Y, 他	小児科	A 16q22.2-q23.1 Deletion Identified in a Male Infant With West Syndrome	Brain Dev. 2019 Nov;41(10):888-893.	Case report
129	Hayabuchi Y, Homma Y, Kagami S	小児科	A novel index equivalent to the myocardial performance index for right ventricular functional assessment in children and adolescent patients	Sci Rep. 2019 Dec 27;9(1):19975.	Original Article
130	Hayabuchi Y	小児科	Right ventricular myocardial stiffness and relaxation components by kinematic model-based analysis	J Med Invest. 2020;67(1.2):11-20.	Review
131	Ono A, Hayabuchi Y, Tanaka M, 他	小児科	Assessment of right ventricular function by isovolumic acceleration of pulmonary and tricuspid annulus in surgically repaired tetralogy of Fallot	J Med Invest. 2020;67(1.2):145-150.	Original Article
132	Yoshida A, Kaji T, Yamada H, 他	産科婦人科	Measurement of hemodynamics immediately after vaginal delivery in healthy pregnant women by electrical cardiometry	J Med Invest. 2019;66(1.2):75-80.	Original Article
133	Iwasa T, Matsuzaki T, Mayila Y, 他	産科婦人科	Oxytocin treatment reduced food intake and body fat and ameliorated obesity in ovariectomized female rats	Neuropeptides. 2019 Jun;75:49-57.	Original Article
134	Iwasa T, Matsuzaki T, Mayila Y, 他	産科婦人科	The effects of chronic oxytocin administration on body weight and food intake in DHT-induced PCOS model rats	Gynecol Endocrinol. 2020 Jan;36(1):55-60.	Original Article
135	Irahara M, Maejima Y, Shinbo N, 他	産科婦人科	Ulipristal acetate for Japanese women with symptomatic uterine fibroids: A double-blind, randomized, phase II dose-finding study	Reprod Med Biol. 2019 Oct 30;19(1):65-74.	Original Article
136	Tonoiso C, Ikushima H, Kubo A, 他	放射線科	Clinical outcomes and prognostic factors of definitive radiotherapy for esophageal cancer	J Med Invest. 2019;66(1.2):99-105.	Original Article
137	Takeuchi M, Matsuzaki K, Bando Y, 他	放射線科	Evaluation of Red Degeneration of Uterine Leiomyoma with Susceptibility-weighted MR Imaging	Magn Reson Med Sci. 2019 Apr 10;18(2):158-162.	Original Article

計19件

138	Takeuchi M, Matsuzaki K, Bando Y, 他	放射線科	Reduced field-of-view diffusion-weighted MR imaging for assessing the local extent of uterine cervical cancer	Acta Radiol. 2020 Feb;61(2):267-275.	Original Article
139	Otomi Y, Otsuka H, Terazawa K, 他	放射線科	A reduced liver 18F-FDG uptake may be related to hypoalbuminemia in patients with malnutrition	Ann Nucl Med. 2019 Sep;33(9):689-696.	Original Article
140	Sasaki M, Ikushima H, Sugimoto W, 他	放射線科	Long-term stability of a three-dimensional dose verification system	Radiol Phys Technol. 2020 Mar;13(1):83-91.	Original Article
141	Hosokawa I, Hosokawa Y, Ozaki K, 他	むし歯科	Carnosic Acid Inhibits CXCR3 Ligands Production in IL-27-Stimulated Human Oral Epithelial Cells	Inflammation. 2019 Aug;42(4):1311-1316.	Original Article
142	Hosokawa Y, Hosokawa I, Ozaki K, 他	むし歯科	Sudachitin Inhibits Matrix Metalloproteinase-1 and -3 Production in Tumor Necrosis Factor-alpha-Stimulated Human Periodontal Ligament Cells	Inflammation. 2019 Aug;42(4):1456-1462.	Original Article
143	Kuramoto H, Hirao K, Yumoto H, 他	むし歯科	Caffeic acid phenethyl ester (CAPE) induces VEGF expression and production in rat odontoblastic cells	Biomed Res Int. 2019 Dec 20;2019:5390720.	Original Article
144	Sakamoto E, Kido J, Takagi R, 他	歯周病科	Advanced glycation end-product 2 and Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide increase sclerostin expression in mouse osteocyte-like cells	Bone. 2019 May;122:22-30.	Original Article
145	Yumoto H, Uebanso T, Shimohata T, 他	歯周病科	Current understanding of the gut microflora in subjects with nutrition-associated metabolic disorder such as obesity and/or diabetes: Is there any relevance with oral microflora?	Current Oral Health Reports. 2019;6:100-109.	Review
146	Yumoto H, Hirota K, Hirao K, 他	歯周病科	The Pathogenic Factors from Oral Streptococci for Systemic Diseases	Int J Mol Sci. 2019 Sep 15;20(18):4571.	Review
147	Nonaka K, Bando M, Sakamoto E, 他	歯周病科	6-Shogaol Inhibits Advanced Glycation End-Products-Induced IL-6 and ICAM-1 Expression by Regulating Oxidative Responses in Human Gingival Fibroblasts	Molecules. 2019 Oct 15;24(20):3705.	Original Article
148	Takagi R, Sakamoto E, Kido J, 他	歯周病科	S100A9 Increases IL-6 and RANKL Expressions through MAPKs and STAT3 Signaling Pathways in Osteocyte-like Cells	Biomed Res Int. 2020 Feb 19;2020:7149408.	Original Article
149	Naruishi K	歯周病科	Carotenoids and Periodontal Infection	Nutrients. 2020 Jan 20;12(1):269.	Others
150	Ninomiya M, Hashimoto M, Yamanouchi K, 他	歯周病科	Relationship of oral conditions to the incidence of infective endocarditis in periodontitis patients with valvular heart disease: a cross-sectional study	Clin Oral Investig. 2020 Feb;24(2):833-840.	Original Article
151	Kishimoto T, Goto T, Ichikawa T	そしゃく科	Prefrontal cortex activity induced by periodontal afferent inputs downregulates occlusal force	Exp Brain Res. 2019 Nov;237(11):2767-2774.	Original Article
152	Matsuka Y, Afroz S, Dalanon JC, 他	かみあわせ補綴科	The role of chemical transmitters in neuron-glia interaction and pain in sensory ganglion	Neurosci Biobehav Rev. 2020 Jan;108:393-399.	Review
153	Naritani M, Inoue M, Raju R, 他	かみあわせ補綴科	Analysis of bone marrow-derived mesenchymal stem cell kinetics after short-term stimulation with tumor necrosis factor-alpha (TNF-alpha)	Journal of Hard Tissue Biology. 2019 Apr;28:99-108.	Original Article
154	Yoshida M, Yanuaryska DR, Shantiningih RR, 他	歯科放射線科	Comparison of radiation risk perception and knowledge of radiation between Indonesian and Japanese dental students	J Environ Radioact. 2019 Aug;204:104-110.	Original Article
155	Fujita M, Sato-Shigeta M, Mori H, 他	矯正歯科	Protective effects of low-intensity pulsed ultrasound on mandibular condylar cartilage exposed to mechanical overloading	Ultrasound Med Biol. 2019 Apr;45(4):944-953.	Original Article
156	Yamaguchi-Ueda K, Akazawa Y, Kawarabayashi K, 他	小児歯科	Combination of ions promotes cell migration via ERK1/2 pathway in human gingival fibroblasts	Mol Med Rep. 2019 Jun;19(6):5039-5045.	Original Article
157	Miyazaki A, Sugimoto A, Yoshizaki K, 他	小児歯科	Coordination of WNT signaling and ciliogenesis during odontogenesis by piezo type mechanosensitive ion channel component 1	Sci Rep. 2019 Oct 14;9(1):14762.	Original Article
158	Aota K, Kani K, Yamanoi T, 他	口腔内科	Management of tooth extraction in a patient with ELANE gene mutation-induced cyclic neutropenia: a case report	Medicine. 2019 Sep;98(39):e17372.	Case report

159	Kudoh K, Fukuda N, Kasugai S, 他	口腔外科	Maxillary sinus floor augmentation using low-crystalline carbonate apatite granules with simultaneous implant installation: First-in-human clinical trial; Journal of Oral and Maxillofacial Surgery	J Oral Maxillofac Surg. 2019 May;77(5):985.e1-985.e11.	Original Article
160	Fukuda N, Ishikawa K, Akita K, 他	口腔外科	Effects of Acidic Calcium Phosphate Concentration on Setting Reaction and Tissue Response to β -tricalcium Phosphate Granular Cement	J Biomed Mater Res B Appl Biomater. 2020 Jan;108(1):22-29.	Original Article
161	Akita K, Fukuda N, Kamada K, 他	口腔外科	Fabrication of porous carbonate apatite granules using microfiber and its histological evaluations in rabbit calvarial bone defects	J Biomed Mater Res A. 2020 Mar;108(3):709-721.	Original Article
162	Nakagawa T, Kudoh K, Fukuda N, 他	口腔外科	Application of low-crystalline carbonate apatite granules in 2-stage sinus floor augmentation: a prospective clinical trial and histomorphometric evaluation	J Periodontal Implant Sci. 2019 Oct 9;49(6):382-396.	Original Article
163	Takaishi K, Kitahata H	歯科麻酔科	Electrons released from both flavins of NADPH-P450 reductase contribute to the reductive mobilization of iron from ferritin	J Med Invest. 2019;66(3.4):230-232.	Original Article
164	Nakanishi N, Tsutsumi R, Okayama Y, 他	救急集中治療部	Monitoring of muscle mass in critically ill patients: Comparison of ultrasound and two bioelectrical impedance analysis devices	J Intensive Care. 2019 Dec 16;7:61.	Original Article
165	Onodera M, Nakataki E, Nakanishi N, 他	救急集中治療部	Bacterial Contamination of Circuit Inner Surfaces After High-Flow Oxygen Therapy	Respir Care. 2019 May;64(5):545-549.	Original Article
166	Nakanishi N, Takashima T, Oto J	救急集中治療部	Muscle atrophy in critically ill patients : a review of its cause, evaluation, and prevention	J Med Invest. 2020;67(1.2):1-10.	Review
167	Nakanishi N, Oto J, Ueno Y, 他	救急集中治療部	Change in diaphragm and intercostal muscle thickness in mechanically ventilated patients: A prospective observational ultrasonography study	J Intensive Care. 2019 Dec 2;7:56.	Original Article
168	Chikata Y, Morinishi K, Nishimura M	ME管理センター	Humidification in very-high-flow nasal-cannula therapy in an adult model lung	Respir Care. 2019 Jul;64(7):809-817.	Original Article
169	Yamaguchi H, Sato K, Kawahito K, 他	総合診療部	Japanese elderly individuals wish for enteral tube feeding more strongly for their parents than for themselves	J Med Invest. 2019;66(3.4):258-263.	Original Article
170	Tani K, Kanamori M, Nagase Y, 他	総合診療部	Past infections are associated with low levels of anti-citrullinated protein autoantibodies in rheumatoid arthritis	J Med Invest. 2020;67(1.2):182-188.	Original Article
171	Tajiri M, Nakahashi O, Kagawa T, 他	栄養部	Association of increased renal Cyp24a1 gene expression with low plasma 1,25-dihydroxyvitamin D levels in rats with streptozotocin-induced diabetes	J Clin Biochem Nutr. 2020 Jan;66(1):49-56.	Original Article
172	Okada N, Chuma M, Azuma M, 他	薬剤部	Effect of serum concentration and concomitant drugs on vancomycin-induced acute kidney injury in haematologic patients: a single-centre retrospective study	Eur J Clin Pharmacol. 2019 Dec;75(12):1695-1704.	Original Article
173	Zamami Y, Niimura T, Okada N, 他	薬剤部	Factors Associated With Immune Checkpoint Inhibitor-Related Myocarditis	JAMA Oncol. 2019 Aug 22;5(11):1635-1637.	Letter
174	Sakurada T, Bando S, Zamami Y, 他	薬剤部	Prophylactic administration of granulocyte colony-stimulating factor in epirubicin and cyclophosphamide chemotherapy for Japanese breast cancer patients: a retrospective study	Cancer Chemother Pharmacol. 2019 Nov;84(5):1107-1114.	Original Article
175	Zamami Y, Niimura T, Koyama T, 他	薬剤部	Search for therapeutic agents for cardiac arrest using a drug discovery tool and large-scale medical information database	Front Pharmacol. 2019 Nov 8;10:1257.	Original Article
176	Chuma M, Makishima M	臨床試験管理センター	Response to: Is vancomycin clearance really correlated with hemoglobin? Arguments that it's not	Eur J Clin Pharmacol. 2019 Nov;75(11):1619-1620.	Original Article
177	Kane C, Takechi K, Chuma M, 他	臨床試験管理センター	Perspectives of non-specialists on the potential to serve as ethics committee members	J Int Med Res. 2019 May;47(5):1868-1876.	Original Article
178	Hirose J, Wakata Y, Tagi M, 他	病院情報センター	The role of medical informatics in the management of medical information	J Med Invest. 2020;67(1.2):27-29.	Original Article

179	Mori H, Kuroda A, Ishizu M, 他	糖尿病臨床・研究開発センター	Association of accumulated advanced glycation end-products with a high prevalence of sarcopenia and dynapenia in patients with type 2 diabetes	J Diabetes Investig. 2019 Sep;10(5):1332-1340.	Original Article
180	Takashi Y, Kosako H, Sawatsubashi S, 他	糖尿病臨床・研究開発センター	Activation of unliganded FGF receptor by extracellular phosphate potentiates proteolytic protection of FGF23 by its O-glycosylation	Proc Natl Acad Sci U S A. 2019 Jun 4;116(23):11418-11427.	Original Article
181	Takashi Y, Ishizu M, Mori H, 他	糖尿病臨床・研究開発センター	Circulating osteocalcin as a bone-derived hormone is inversely correlated with body fat in patients with type 1 diabetes	PLoS One. 2019 May 3;14(5):e0216416	Original Article
182	Mori H, Kuroda A, Matsuhisa M	糖尿病臨床・研究開発センター	Clinical impact of sarcopenia and dynapenia on diabetics	Diabetol Int. 2019 Jun 19;10(3):183-187.	Review
183	Takashi Y, Wakino S, Minakuchi H, 他	糖尿病臨床・研究開発センター	Circulating FGF23 is not associated with cardiac dysfunction, atherosclerosis, infection or inflammation in hemodialysis patients	J Bone Miner Metab. 2020 Jan;38(1):70-77.	Original Article

計183件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 1. 委員会規則（組織，申請手続き，審議，有害事象，実施状況報告，終了報告など会議等委員会運営に必要な事項），2. 医学系研究実施に係る標準業務について，3. 医学系研究に関連する重篤な有害事象対応について，4. 研究者主導臨床研究でのモニタリング又は監査の受入れについて，5. 他の研究機関への既存試料・情報提供について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 利益相反管理規程（管理の概要，手続き及び方法，勧告及び監査）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年4回
・ 研修の主な内容 総合臨床研究センターが主催する臨床研究・治験推進セミナー等（臨床研究実施の基準と現状，日本における倫理指針と倫理性担保，倫理委員会申請手続き，CRC活動と臨床研究支援，研究倫理，モニタリング・監査，臨床研究法）	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

希望する診療領域に応じて卒後3～6年を目処に基本領域の専門医を取得した後、高度先進医療・先端医療を担うべくサブスペシャリティ領域の専門医取得を目指す。また、本人の希望により、並行して社会人大学院に在籍して医学博士号の取得や、臨床技術研鑽及び研究のための他施設(国内外)での研修も可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	335人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和泉唯信	内科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
長井幸二郎	内科	講師	25年	診療科長・プログラム責任者
安倍正博	内科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	循環器内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
和泉唯信	神経内科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	消化器内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
長井幸二郎	腎臓内科	講師	25年	診療科長・プログラム責任者
遠藤逸朗	内分泌・代謝内科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
安倍正博	血液内科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	呼吸器・膠原病内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	外科	教授	23年	診療科長・プログラム責任者
丹黒 章	外科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	外科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	消化器・移植外科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	呼吸器外科	准教授	24年	診療科長・プログラム責任者
丹黒 章	食道・乳腺甲状腺外科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
石橋広樹	小児外科	病院教授	31年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	心臓血管外科	教授	23年	診療科長・プログラム責任者
金山博臣	泌尿器科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
西良浩一	整形外科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
高木康志	脳神経外科	教授	27年	診療科長・プログラム責任者
久保宜明	皮膚科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
三田村佳典	眼科	教授	33年	診療科長・プログラム責任者
武田憲昭	耳鼻咽喉科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
原田雅史	放射線科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
岩佐 武	産婦人科	教授	18年	診療科長・プログラム責任者
大森哲郎	精神科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
渡辺浩良	小児科	准教授	26年	診療科長・プログラム責任者

田中克哉	麻酔科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
橋本一郎	形成外科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
大藤 純	救急科	教授	23年	診療部長・プログラム責任者
上原久典	病理診断科	教授	30年	診療部長・プログラム責任者
谷 憲治	総合診療部	教授	38年	診療部長・プログラム責任者
加藤真介	リハビリテーション科	教授	36年	診療部長・プログラム責任者
長井幸二郎	臨床検査	講師	25年	診療科長・プログラム責任者

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1) 院内認定コース（院内）

徳島大学病院の看護部では、特定の専門領域において3年以上の実務経験のある医療者を対象とした質の高い医療人を育成するために、院内認定コースを13コース開講している。研修は、各コースに該当する領域の認定看護師、専門看護師、エキスパート助産師らが担当し、規定の出席・試験・レポート評価が合格基準を満たした受講生には、徳島大学病院長から修了書及びバッジが授与される。

院内認定取得後は、各コースの専門性を生かした質の高い看護ケアを、多職種とともにチームで実践している。

- ・研修の期間・実施回数 令和1年6月～令和2年3月 427回
- ・研修の参加人数 22名

2) 院内認定コース：フォローアップ研修

院内認定取得者のためのフォローアップ研修（全13コース）を年1回以上実施している。院内認定資格は、5年毎の更新制度を取り入れているため、フォローアップ研修を通して認定取得者の活動支援及び能力の維持・向上支援を行っている。

- ・研修の期間・実施回数 令和1年7月～令和2年1月 29回
- ・研修の参加人数 85名

3) 医療専門職部門キャリア形成支援研修会

医療技術職員対象で、日頃の業務に役立ちキャリアアップにつながる研修を実施している。

- ・研修の期間・実施回数 平成31年4月～令和2年2月 11回
- ・研修の参加人数 334名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1) 退院支援看護師育成コース

入院時から退院後の地域での暮らしを見据えた退院支援ができ、きめ細やかな継続ケアの実現を図ることができる看護師の育成を実施している。

- ・研修の期間・実施回数 令和1年6月～令和2年1月 21回
- ・研修の参加人数 6名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

1) 院内認定コース

院内認定コース9コースの研修コースプログラム及びコースの一部の講義を徳島県下の病院に公開し、地域における質の高い医療の推進、医療人の育成に貢献している。

- ・研修の期間・実施回数 令和1年6月～令和2年3月 226回
- ・研修の参加人数 584名（うち、各コースにおける全講義出席者2名）

2) 徳島大学病院栄養サポートチーム（NST）研修

栄養サポートチーム (NST) 専門療法士認定教育施設として実地修練を受け入れている。

- ・研修の期間・実施回数 令和1年12月2日～12月6日
- ・研修の参加人数 12名 (看護師 5名, 薬剤師 2名, 管理栄養士 5名)

3) 徳島大学病院心・血管エコー検査修得プログラム研修

認定超音波検査士の取得に必要な基礎から臨床までの幅広い知識を学習するため、あわせて医療現場ですぐに役立つエコー検査の技術習得のための研修を受け入れている。

- ・研修の期間・実施回数 平成31年4月1日～令和2年3月31日
- ・研修の参加人数 2名 (臨床検査技師)

4) 医師, 看護師, 薬剤師, 管理栄養士, 臨床検査技師, 診療放射線技師, 理学療法士, 歯科衛生士等の免許を有する者を徳島大学病院の当該部署において研修させる。

研修の期間・実施回数 (延べ日数)	研修の参加人数
(医師) 4月～3月 60日	2名
(看護師) 4月～2月 77日	44名
(臨床検査技師) 4月～3月 367日	14名
(診療放射線技師) 4月～3月 30日	2名
(理学療法士) 4月～3月 49日	8名
(歯科衛生士) 4月～3月 12日	3名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	①. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 香美 祥二	
管理担当者氏名	総務課長 経理調達課長 医事課長 薬剤部長 看護部長 医療技術部長 病院情報センター部長 手術部長 放射線部長 ME管理センター長	泉 朗 垣添 裕之 田村 昌己 石澤 啓介 高開 登茂子 中尾 隆之 廣瀬 隼 高木 康志 原田 雅史 田中 克哉

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	文書ファイル又は電子媒体で保管 ※診療録の病院外持ち出しは認めていない
		各科診療日誌	各診療科(部)	
		処方せん	病院情報システム	
		手術記録	病院情報システム	
		看護記録	病院情報システム	
		検査所見記録	病院情報システム	
		エックス線写真	病院情報システム	
		紹介状	病院情報システム	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	文書ファイルで保管
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	文書ファイルで保管
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	文書ファイルで保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME管理センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理センター	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	文書ファイルで保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	医事課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医事課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 前島 一実	
閲覧担当者氏名	総務課長 泉 朗	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要 閲覧請求を申請する者は、事前に担当部署に申請を行う。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用語の定義 2 安全管理に関する基本的考え方 3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本事項 4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針 5 医療上の事故等の報告に関する基本方針 6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 7 患者等からの相談へ及び苦情等への対応に関する基本方針 8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容： リスクマネジメント委員会（毎月原則1回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。 2 医療上の事故等発生時の対応に関すること。 3 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品、未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関すること。 4 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。 5 その他医療上の事故等に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年5回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>令和元年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回安全管理研修会「薬剤にかかる安全管理について」 第2回安全管理研修会「せん妄について」 第3回安全管理研修会「本院における安全管理」 第4回安全管理研修会「気管切開」 第5回安全管理研修会「これだけは知っておきたい、医療被曝と職業被曝」 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

事故報告等の報告に関しては、「徳島大学病院インシデント等発生時の報告に関する取扱要項」を定め、「インシデント報告システム」により報告される。報告されたインシデントは、リスクマネージャーからの報告や安全管理部リスクマネジメント部門員による現場確認及び当事者等の事情聴取により確認され、安全管理部リスクマネジメント部門会議(分析)において、インシデント報告書に基づき改善策を検討する。次に、リスクマネジメント部門会議(分析)での改善策をリスクマネジメント部門会議(全体)で検討する。さらに、これらの改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会でフィードバックする。

次のステップとして、実施された改善策のうち、実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、リスクマネジメント部門会議(評価)で評価し、改善策を検討する。上記と同様に、リスクマネジメント部門会議(評価)での改善策をリスクマネジメント部門会議(全体)で検討する。次に、これらの実施された改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会で再度フィードバックする。さらに、実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、リスクマネジメント部門会議(評価)からリスクマネージャー連絡会でのフィードバックを繰り返し行う。(PDCA手法を取り入れている。)

分析方法については、インシデント報告された報告事例(一月約300件程度)を職種の違う担当者が分担して1件1件内容を確認し、インシデントへの意見等を出し合う。その中で、インシデントが警鐘的な事例や、インシデントが他部署にわたる事例など、また、全国的に頻発している事例などを選び、2~3事例、SHELL分析にて毎月分析をしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院(以下「本院」という。)の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療(最先端医療を含む)を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用語の定義 2 安全管理に関する基本的考え方 3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項 4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針 5 医療上の事故等の報告に関する基本方針 6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 7 患者等からの相談へ及び苦情等への対応に関する基本方針 8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年17回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染対策委員会(毎月原則1回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染の予防及び対策に関すること。 2 院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること。 3 院内感染発生時の措置に関すること。 4 職員の院内感染の教育に関すること。 5 感染制御部の運営に関すること。 6 その他院内感染に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <p>令和元年度</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 第1回感染対策研修会「抗菌薬の適正使用について」、「標準予防策について」 ② 第2回感染対策研修会「冬の感染症対策」 ③ 第3回感染対策研修会「徳島大学病院は医療ケアチームの取り組み～排尿自立を目指し、尿路感染症を減らす～」、「ワクチン接種の適応と安全性について」、「15分で把握する主要抗菌薬の抗菌スペクトルーβラクタム薬編一」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

- 1 毎週1回、ICTラウンドを計画的に実施、改善点を部署にフィードバックし、更にICNラウンドで確認している。
- 2 抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬について、届出制を実施しているが、抗MRSAについてはTDMの実施状況と抗MRSAの適正使用について毎月検討している。
- 3 HIVチームカンファレンスを実施し、2ヶ月に1回開催しているHIV/エイズ小委員会で院内のHIV症例の事例検討や検査結果の報告をしている。
- 4 職業感染対策として、全職員の抗体の有無を把握している。針刺し等防止対策としては、曝露者の面接をすべての事例で行い、改善策をフィードバックしている。
- 5 ICUでのBSIサーベイランス、消化器外科・小児対象の心臓血管外科でのSSIサーベイランスを実施している。
- 6 教育体制として、①感染対策研修会、②部署別出張研修、③研修医研修、④看護師研修(新人、2年目、専門)、⑤感染管理院内認定コース、⑥育休復帰者研修に分けて計画している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 「医薬品の安全管理」 「処方時の注意点と薬剤業務」 「注意すべき薬剤について」 「病棟における持参薬の取り扱いについて」 「医薬品安全性情報の重要性について」 「プレアポイド報告について」 「副作用報告制度について」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 各種薬剤業務、病棟における医薬品管理が適正に行われているかを病棟間相互チェック等の際に調査し、不備な点を指摘し改善している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> オルベスコ200μgインヘラーを新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に使用 使用期間：2020年3月1日～2023年2月28日 使用方法：1日2回、1回2吸入、14日間 有害事象の把握方法：投与日から投与終了日まで数日おきに、血液検査(CBC、肝機能、腎機能、膵機能、血糖値等)を行い、有害事象の早期発見に努める。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 全病棟に薬剤師を配置し、持参薬を含め、病棟の医薬品を管理する体制を整えている。 ・ 病棟薬剤業務により得られた副作用情報を週1回の薬剤部カンファレンスで薬剤部員に伝えている。 ・ 医薬品を適応外使用する場合の院内規定を設けるとともに、適応外使用に関する情報を収集し医薬品安全管理責任者から安全管理部への報告体制および診療科への指導体制を整備している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年80回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新しい医療機器の導入時の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用した経験のない新しい医療機器を導入する際には、当該医療機器を使用する予定の医療従事者に対する研修会を実施し、その記録を保存している。 ・ 令和元年度における新しい医療機器を導入する際に開催した研修会は、医療機器7機種に対して、計19回(参加人数：132名)実施した。 <p>(2) 特定機能病院における医療機器研修(院内研修会)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定機能病院として、特に安全使用に際しての技術の習熟が必要と考えられる医療機器については、研修会を実施し、その記録を保存している。 ・ 2020年度新規採用者オリエンテーション(対象：医師、看護師)にて、医療機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ)の研修会(開催回数：2回、参加人数：62名)を実施し、正しい操作方法を身に付け、インシデントを予防するためのポイントを学ぶことを目的に実技研修も取り入れた。 ・ 2020年度新規採用者オリエンテーション(対象：医師)にて、医療機器(除細動装置)も同様に研修会(開催回数：1回、参加人数：14名)を実施した。 ・ 平成27年度から各病棟(東病棟、西病棟)、外来などの各部署から個別依頼された医療機器の研修会は不定期(要望依頼時)に実施することにより、平成26年度まで実施していた定期研修会より従事者の参加人数が増加している。令和元年度に実施した医療機器は人工呼吸器(ネーザルハイフロー等含む)、除細動装置、血液透析装置等及び医療ガス安全管理講習会等で、計24回(参加人数：219名)実施した。医療機器の研修会については、臨床工学技士または医療機器製造販売メーカー担当者が医療機器の正しい操作方法、またはトラブルシューティングなどについて説明している。 ・ 放射線部内(対象：診療放射線技師)で実施した医療機器の研修会は計6回(参加人数：68名)であった。 <p>(3) 特定機能病院における医療機器研修(院外研修会)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度における医療機器研修(対象：臨床工学技士、診療放射線技師)では、院外研修会に計28回(臨床工学技士：21回、診療放射線技師：7回)、計参加人数61名(臨床工学技士：33名、診療放射線技師：28名)である。 ・ 令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の為、徳島県内外で開催予定であった医療機器研修会及び講習会は中止、または延期になっている。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有)・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 医療機器製造販売メーカーの指定期間(使用年数または使用時間)により、プリベンティブメンテナンスや機器のオーバー・ホールを各メーカーへ依頼し、実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：使用事例無し</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の添付文書及び医薬品・医療機器総合機構(PMDA)の医療機器安全性情報サービズに登録し、情報を収集している。また、直接、医療機器製造販売メーカーから不具合情報や安全情報を得ている。収集した医療機器に関連した不具合情報や安全情報、情報の性質や内容により異なるが、使用者(医療従事者)や内容が特定の部署に限定される場合には個別に必要</p>	

部署のみに周知し、多くのスタッフが知る必要がある場合には、安全管理部等を通じて院内周知している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日から医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理担当の副院長をもって充てている。</p> <p>また、同規則にて、医療安全管理責任者が安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する規定を定めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>緊急安全性情報・安全性速報等の医薬品情報を収集、整理し医療スタッフへ提供および周知状況を確認する体制を整備した。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤部内に医薬品の安全管理を担う担当者（薬剤部安全管理担当者）を定めるとともに、未承認等の医薬品の使用の情報等の収集及び指導等を行う体制を整備した。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日からインフォームドコンセント責任者を置き、インフォームドコンセントガイドラインの管理・周知徹底、適切な実施及び指導等の業務を行う規定を定めた。</p> <p>インフォームドコンセントガイドラインの主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的 2 対象 3 説明して同意を得る手順 <ul style="list-style-type: none"> ・誰が説明し、誰が立ち会うのか ・どこで行うのか 	

<ul style="list-style-type: none"> ・記録と保管 ・説明と同意 ・説明の内容 ・セカンドオピニオンについて ・代理人が必要な場合の説明と同意 ・緊急時の対応 	
<p>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</p>	<p>① 有・無</p>
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p style="padding-left: 40px;">診療録等の管理に関する責任者の選任にあたっては、徳島大学病院診療録管理規則により、本院の医療支援センター長を診療録管理責任者として充てている。</p> <p style="padding-left: 40px;">診療録管理責任者は、診療録の記載内容を確認し、診療録の適切な管理を行うものとしている。</p>	
<p>⑥ 医療安全管理部門の設置状況</p>	<p>① 有・無</p>
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（２）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（２）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本院において発生した医療上の事故等の原因究明、調査、分析及び対策の検討並びに当該医療上の事故等の再発防止に関すること。 (2) 事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること。 (3) 患者及び家族への説明等事故発生時の対応状況についての確認及び指導に関すること。 (4) 医療上の事故等の防止に関する教育及び研修の企画及び実施に関すること。 (5) 医療上の事故等の防止に関する情報の収集及び提供に関すること。 (6) 医療上の事故防止安全対策マニュアルの改訂に関すること。 (7) インシデント報告の管理に関すること。 (8) リスクマネジメント委員会で用いられる資料及び議事要録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること。 (9) 医療安全に係る連絡調整に関すること。 (10) 医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。 (11) 医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。 	

(12) その他医療上の事故防止及び医療の安全性の向上に関すること。

リスクマネジメント委員会にて審議された医療安全に資する診療内容について、リスクマネジメント評価委員会にて従事者の認識確認を常時行っている。

令和元年度は、①窓からの転落を防止するための開口制限を全病室に設置、②不眠時、せん妄時の推奨薬剤を決定し周知、③気管切開チューブの事故除去時の対応方法を対象患者ベッドサイドへの掲示、などの活動を行った。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療の提供についての審査に関すること。
 - (2) 高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療実施後の症例報告の検証に関すること。
 - (3) その他高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（31件）、及び許可件数（31件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 未承認新規医薬品を用いた医療の提供についての審査に関すること。

<p>(2) 未承認新規医薬品を用いた医療の提供後の報告に関すること。</p> <p>(3) その他未承認新規医薬品に関すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無) ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年222件 ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年57件 ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。 (2) 医療上の事故等発生時の対応に関すること。 (3) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品及び未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関すること。 (4) 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。 (5) その他医療上の事故等に関すること。
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="radio"/> 有) (病院名：東京大学医学部附属病院) ・ 無) ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="radio"/> 有) (病院名：神戸大学医学部附属病院) ・ 無) ・ 技術的助言の実施状況 <p>本院から安全管理部長はじめ安全管理部のメンバーが東京大学医学部附属病院を訪問し、各種項目についての実施状況の確認を行った。高難度新規医療技術に関して、審議がWebベースで行われているが、対面の会議の場合は、各々の委員は審議されている内容が分かりやすく共通の理解を得られやすい点がある等の意見を述べた。</p> <p>また、本院も神戸大学医学部附属病院からのチェックを受け、現在明記されていない申し合わせ事項等の明文化、改善していく過程での議論等の記録を残しておくことが望ましいなどの助言をいただいた。</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体制の確保状況 <p>院内の患者相談は全て患者支援センターを窓口としており、患者から分かりやすい場所に立地している。当該センターで受け付けた安全管理に係る相談は、その内容に応じて、医療安全管理</p>

部門など適切な専門の担当部署に振り分け、患者支援センターの相談員と協働して相談に対応する。また、患者相談の内容と対応状況は、患者支援センター内の会議（実務者会議）で報告され、当該センターが至急又は重大と判断する相談内容は、病院長に直接報告を行う。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

現在行われている医療に係る安全管理及び医薬品等の安全使用のための研修において、必ず実施すべき研修項目を追加する。また、小テストやe-learningを活用したテスト等により、学習効果測定を実施する。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

毎年安全管理研修会を院内において実施し、管理者をはじめ、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者が必ず毎年受講している。

また、令和元年度は管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者がそれぞれ日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修に参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 徳島大学病院長選考委員会が策定した選考基準案に基づき、大学役員会の議を経て、選考基準を決定し公表する。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 WEB上にて公表
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 本院の管理運営に関する重要事項を審議する。 ・審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は診療科連絡会において全部署のスタッフに周知が図られる。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 WEB上にて公表 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
香美 祥二	○	医師	病院長
金山 博臣		医師	副病院長 (総務担当)
西岡 安彦		医師	副病院長 (診療担当)
北畑 洋		医師	副病院長 (歯科担当)
加藤 真介		医師	副病院長 (医療安全管理担当)
高開 登茂子		看護師	副病院長 (看護担当)
安倍 正博		医師	病院長補佐 (教育・研修・地域連携担当)
大藤 純		医師	病院長補佐 (救急・災害担当)
湯本 浩通		歯科医師	病院長補佐 (医歯連携担当)
高木 康志		医師	病院長補佐 (国際交流担当)
廣瀬 隼		医師	病院長補佐 (病院情報担当)
原田 雅史		医師	病院長補佐 (病院業務強化担当)
中尾 隆之		臨床検査技師	病院長補佐 (医療支援担当)
篠原 義明		(外部有識者)	病院長補佐 (経営担当)
前島 一実		事務	病院長補佐 (事務担当)
上原 久典		医師	病理部
坂東 良美		医師	病理部
谷 憲治		医師	総合診療部
船木 真理		医師	糖尿病対策センター
居村 暁		医師	地域外科診療部
早瀬 康信		医師	地域小児科診療部
酒井 陽子		医師	麻酔科診療部
佐田 政隆		医師	内科 (循環器内科)
高山 哲治		医師	内科 (消化器内科)
長井 幸二郎		医師	内科 (腎臓内科)

遠藤 逸朗		医師	内科（内分泌・代謝内科）
和泉 唯信		医師	内科（脳神経内科）
秦 広樹		医師	外科（心臓血管外科）
丹黒 章		医師	外科（食道・乳腺甲状腺外科）
島田 光生		医師	外科（消化器・移植外科）
石橋 広樹		医師	外科（小児外科・小児内視鏡外科）
滝沢 宏光		医師	外科（呼吸器外科）
三田村 佳典		医師	感覚・皮膚・運動機能科（眼科）
武田 憲昭		医師	感覚・皮膚・運動機能科（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
西良 浩一		医師	感覚・皮膚・運動機能科（整形外科）
久保 宜明		医師	感覚・皮膚・運動機能科（皮膚科）
橋本 一郎		医師	感覚・皮膚・運動機能科（形成外科・美容外科）
田中 克哉		医師	脳・神経・精神科（麻酔科）
大森 哲郎		医師	脳・神経・精神科（精神科神経科）
渡辺 浩良		医師	小児・周産・女性科（小児科）
岩佐 武		医師	小児・周産・女性科（産科婦人科）
生島 仁史		医師	放射線科（放射線治療科）
中西 正		歯科医師	歯科（むし歯科）
市川 哲雄		歯科医師	歯科（そしゃく科）
松香 芳三		歯科医師	歯科（かみあわせ補綴科）
誉田 栄一		歯科医師	歯科（歯科放射線科）
田中 栄二		歯科医師	矯正歯科
長谷川 智一		歯科医師	小児歯科
東 雅之		歯科医師	歯科口腔外科（口腔内科）
宮本 洋二		歯科医師	歯科口腔外科（口腔外科）
楊河 宏章		医師	総合臨床研究センター
河野 文昭		歯科医師	総合歯科診療部
石澤 啓介		薬剤師	薬剤部長
阪上 浩		医師	栄養部長
高橋 章		医師	栄養学科
安井 敏之		医師	保健学科
日野出 大輔		歯科医師	口腔保健学科
松久 宗英		医師	糖尿病臨床・研究開発センター

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 無)
- ・ 公表の方法 WEB上にて公表
- ・ 規程の主な内容
(徳島大学病院規則)
 - ・ 病院長は、本院の業務を統轄し、職員を監督するとともに、教育研究、診療及び経営に従事し、かつ、管理運営をつかさどる。
 - ・ 病院長は、本院を代表し、その責任者となる。
(徳島大学病院院内組織に関する内規)
 - ・ 各診療科に診療科長及び副診療科長を置く。
 - ・ 診療科長は、当該診療科を担当する教授、准教授又は講師のうちから病院長が任命する。
 - ・ 病院長は、診療科長が次のいずれかに該当する場合は、病院教授会の議を経て診療科長を解任することができる。
 - (1)心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - (2)職務上の義務違反があるとき。
 - (3)その他診療科長たるに適しないと認めるとき。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長5名（総務、診療、歯科、医療安全管理、看護）
 - ・ 副病院長は病院長の命を受けて、特定の事項を担当する。

 - ・ 病院長補佐9名（教育・研修・地域連携、救急・災害、医歯連携、国際交流、病院情報、病院業務強化、医療支援、経営、事務）
 - ・ 病院長補佐は、病院長の職務を補佐する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
管理者向けの研修に参加させている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 次の事項を審議する。</p> <p>1 病院の医療安全に係る業務遂行の状況に対する監査に関すること。</p> <p>2 安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：徳島大学・徳島大学病院のホームページにて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市民病院 ・病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有 (無)	1
白川 剛	白川剛法律事務所 ・弁護士		法律に関する識見を有するため	有 (無)	1
上田 伊佐子	徳島文理大学 保健福祉学部 ・准教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者(学識経験を有する者)	有 (無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

徳島大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規程等の整備状況及び実施状況、
年度計画に基づく組織及び制度全般の運営状況等について監査を行っている。

また、コンプライアンス事案を把握した場合は、国立大学法人徳島大学におけるコンプライ
アンスの推進に関する規則に基づき、調査を行う。

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法 WEB上にて公表

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 徳島大学経営協議会をもって充てることとし、病院の経営に関する事項については病院長が出席し審議を行うこととしている。 ・ 会議体の実施状況（年4回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年4回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 WEB上にて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">▪ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）▪ 通報件数（年〇件）▪ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）▪ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）▪ 周知の方法 徳島大学のホームページにて周知，院内各部署に通知

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
●IS09001 一般社団法人日本能率協会審査登録センター 登録有効期限：2020年12月17日	
●IS015189 公益財団法人日本適合性認定協会 認定有効期限：2023年7月31日	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
1) 病院ホームページへの掲載	
2) 広報誌：①病院概要 ②徳大病院だより“いきいきらいふ”年4回発行(5,000部×4回)	
3) 市民公開講座(徳島大学病院フォーラム)年1回開催	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
・がん診療連携センター 都道府県がん診療連携拠点病院の指定をうけ、複数の診療科と県内3ヶ所の地域がん診療連携拠点病院および他の様々な医療機関と連携して、県内のがんの診断・治療の向上のみならず、がん医療の相談支援、情報提供、地域連携および均てん化を図る中心的な役割を果たしている。	

本センターは、がん研究・研修部門、がん登録部門、がん診療連携・相談部門、がん診療企画部門、がん化学療法部門、がん緩和・こころのケア部門の6つの部門から構成されている。医師、看護師、薬剤師、技師、心理士、事務職員がそれぞれ高い志の下に連携し、最新の診断・治療機器や高度な治療技術を駆使した横断的な医療の実践のみならず、看護、研究、啓発、情報発信、人材育成まで含めた幅広い分野でがんと闘う組織を整備している。

・医科と歯科の連携

医科入院患者およびICU患者、手術・放射線・化学療法前患者に対して口腔管理センター・口腔内科が窓口となって口腔ケアを実施している。さらに特定の診療科（精神科神経科、心臓血管外科、消化器・移植外科）に特化した口腔ケア体制を構築している。

・耳鼻科と歯科の連携

摂食・嚥下リハビリテーションを必要とする入院患者に対して、リハビリテーション部医師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、歯科医師、言語聴覚士が連携し、カンファレンスを継続して実施している。また、診断の際に必要なVE（嚥下内視鏡検査）の診断について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と協力して実施している。

・形成外科と矯正歯科の連携

口蓋裂患者及び顎変形症患者のチーム診療を行うため、カンファレンスを定期的に行い、口蓋裂患者、顎変形症患者の、口腔外科及び矯正歯科と形成外科・美容外科間の診療ネットワークを構築している。